TDB 電子認証サービス TypeA

TypeA ご利用ソフト V4.1

環境設定手順書

2012 年 8 月 8 日

Rev 1.0

株式会社帝国データバンク

©TEIKOKU DATABANK,LTD. 2012
All Rights Reserved.

目次

1 TypeA ご利用ソフト 環境設定手順 1

2 最新情報と「よくある質問」 1

3 初期セットアップ（環境設定） 2

3.1 初期セットアップとは 2
3.2 Java 実行環境の表示 2
3.3 Java 実行環境が複数表示される場合 3
3.4 IC カード動作確認 4
3.4.1 IC カード動作確認 4
3.4.2 受領書送信 9
3.5 リポジトリ接続テスト 18
3.6 セキュリティポリシー設定 23
3.7 Internet Explorer への証明書登録 25

4 クライアントツール 28

4.1 IC カードロック解除ツール 28
4.2 認証局証明書管理ツール 32
4.3 ポリシー設定ツール 38
4.4 e-Tax 設定ツール 46
4.5 利用環境送信ツール 50
4.6 リポジトリ接続プロトコル設定ツール 52

1　TypeA ご利用ソフト 環境設定手順

『TypeA ご利用ソフト取扱説明書』でインストールした「TypeA ご利用ソフト」（以下、ご利用ソフト）をお使いいただくために、本環境設定手順書に従い、以下の設定を行う必要があります。

初期セットアップ（環境設定）	（2ページ）
IC カード動作確認	（4ページ）
受領書送信	（9ページ）
リポジトリ接続テスト	（18ページ）
セキュリティポリシー設定	（23ページ）
Internet Explorer への証明書登録	（25ページ）

2　最新情報と「よくある質問」

最新情報については、TDB 電子認証サービス TypeA ホームページをご参照ください
URL は、以下のとおりです。

（URL　http://www.tdb.co.jp/typeA/　）

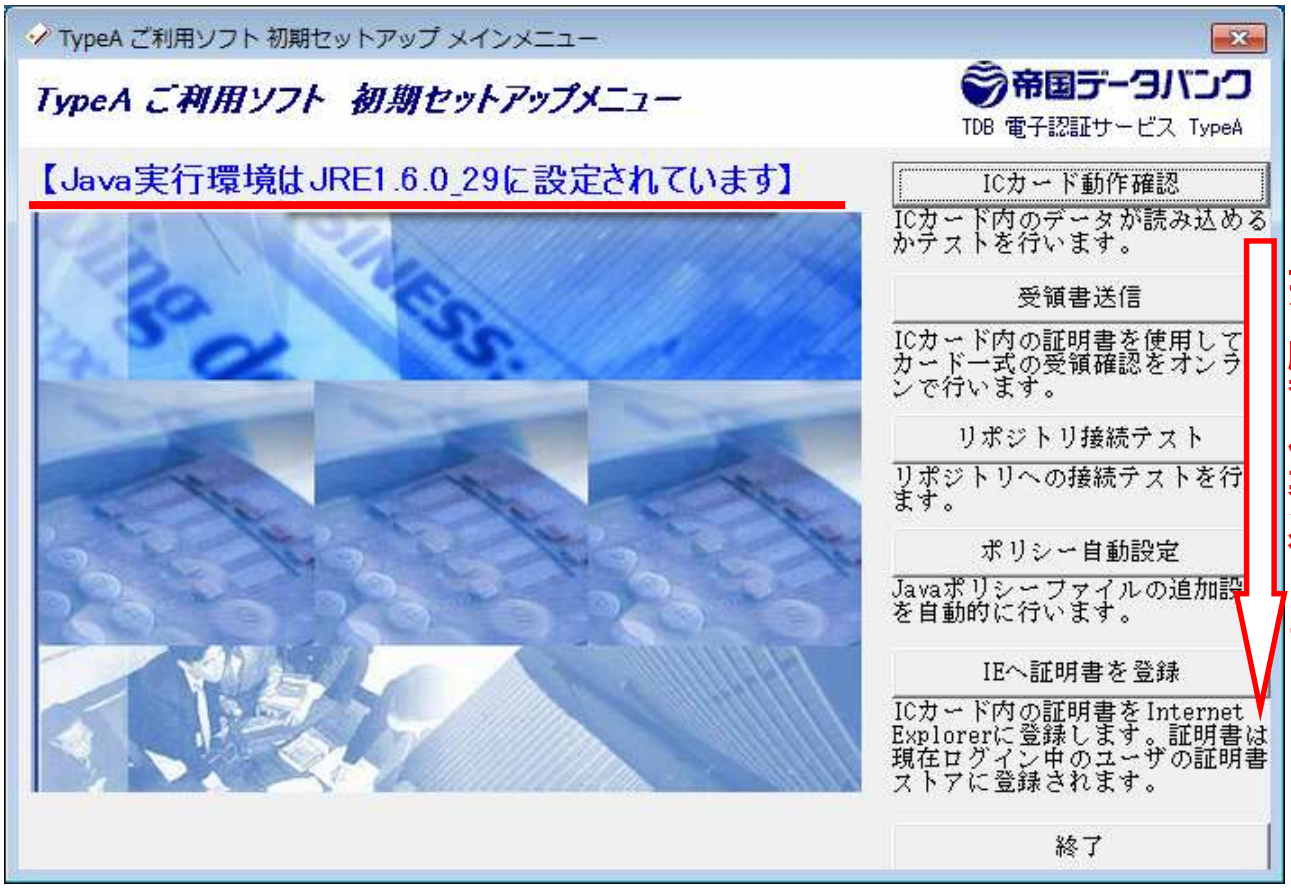
また、インストールや設定などに関する「よくある質問」をホームページで公開し、随時更新しておりますので、ご参照ください。

（URL　http://www.tdb.co.jp/typeA/support/01.html　）

3　初期セットアップ（環境設定）

3.1 初期セットアップとは

「ご利用ソフト」が新規インストールされたときは、「TypeA ご利用ソフト 初期セットアップメニュー」（以下、「初期セットアップメニュー」）がインストールの最後に自動的に起動されます。
「ご利用ソフト」をバージョンアップ更新インストールしたときは、設定が引き継がれているため、「初期セットアップメニュー」は自動起動されません。



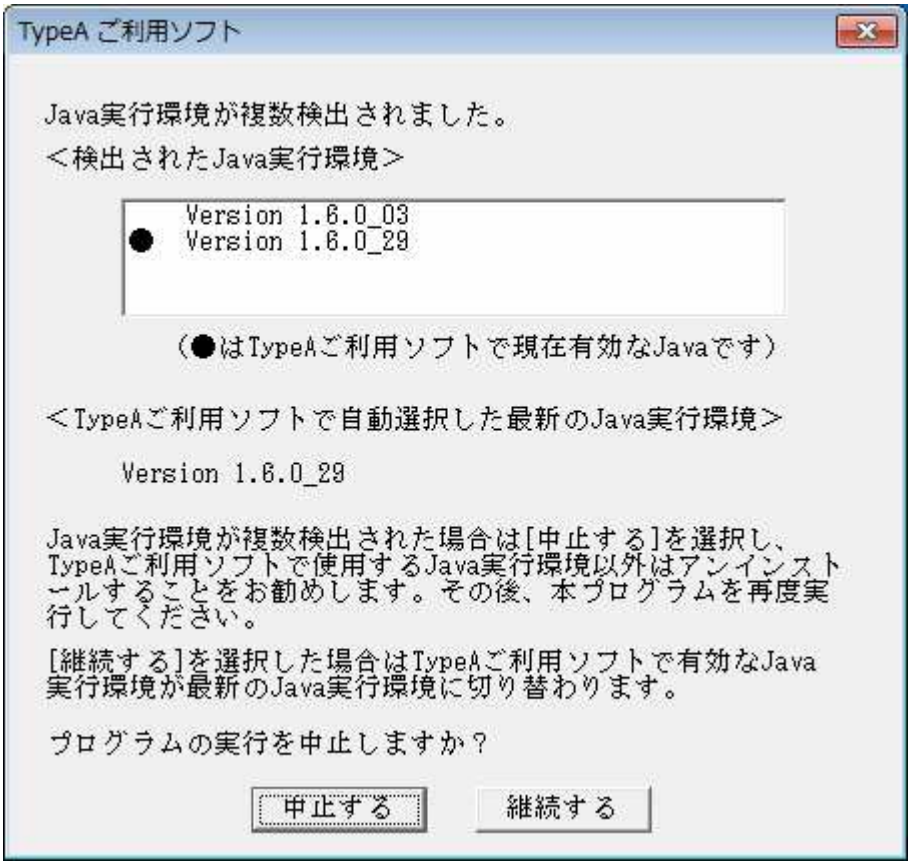
3.2 Java 実行環境の表示

「初期セットアップメニュー」を起動すると、自動判別した Java 実行環境が上部に表示されます。
「表示された Java 実行環境バージョン」と「発注機関が推奨する Java 実行環境バージョン」が異なる場合は、インストール済の Java 実行環境をアンインストールし、発注機関が推奨する Java 実行環境をインストールした後に、「初期セットアップメニュー」を起動してください。
また、**Java 実行環境を入れかえた時は、ご利用ソフトで有効とするため、必ず「初期セットアップメニュー」を実行**してください。

《ご参考》「初期セットアップメニュー」は、[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [初期セットアップ] を選択することでも起動できます。

3.3 Java 実行環境が複数表示される場合

複数の Java 実行環境がインストールされている場合に以下の確認画面が表示されますが、[継続する]ボタンを押してください。「ご利用ソフトで自動選択した最新の Java 実行環境」に書かれてある Java 実行環境のバージョンが、発注機関が推奨する Java 実行環境が異なる場合は[中止する]ボタンを押し、利用予定の Java 実行環境をインストール後、再度「初期セットアップメニュー」を起動してください。なお、初回インストール時には「●」は表示されません。



3.4　IC カード動作確認

3.4.1　IC カード動作確認

以下の３点について、確認を行います。

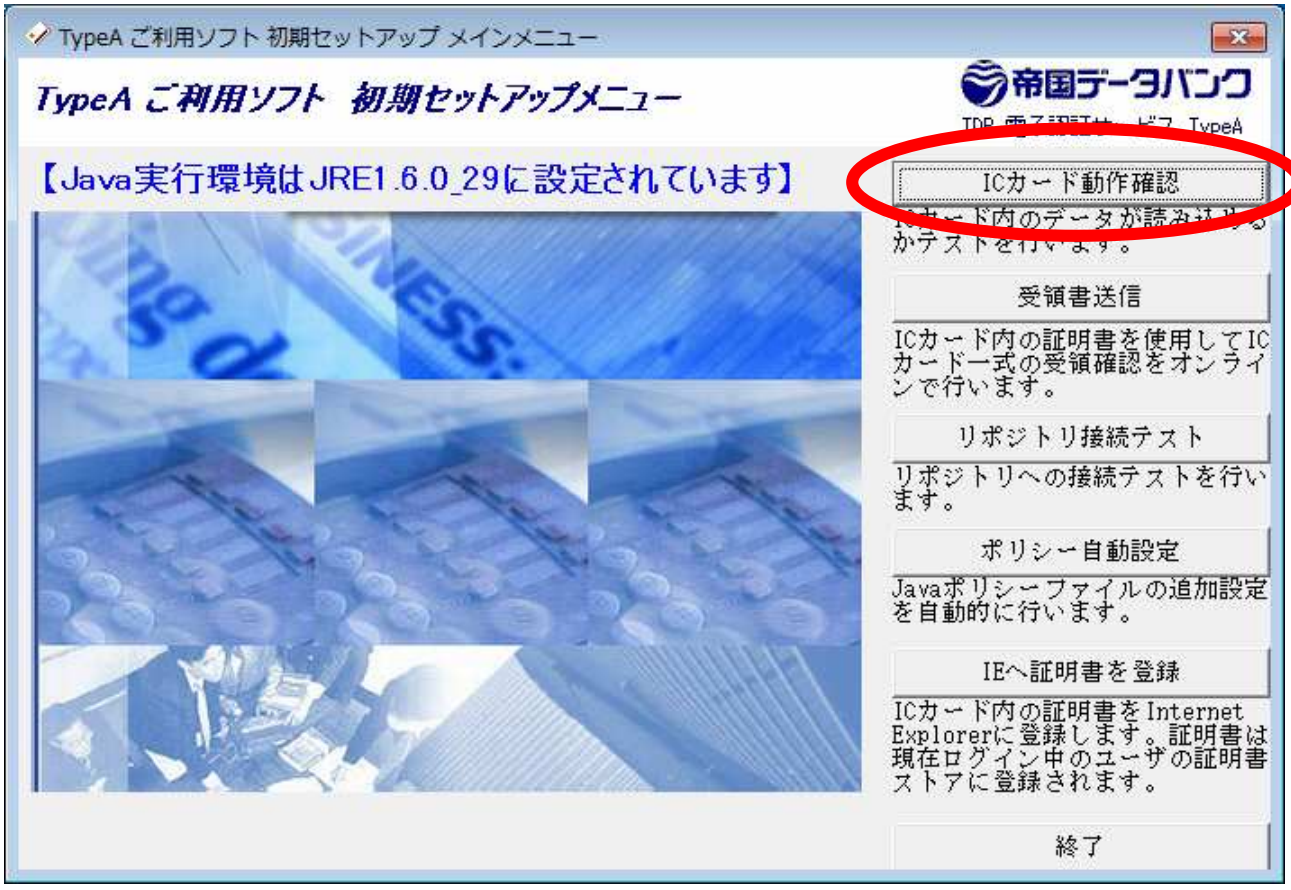
1. 「IC カードリーダ ドライバソフト」、「Java 実行環境」、および「ご利用ソフト」の各種インストール作業が正しく行われていること
2. IC カードに格納されている電子証明書の記載内容に誤りがないこと
3. IC カードに初期不良がなく、使用が可能であること

準備

IC カードリーダが、お使いのパソコンに接続されていることを確認して、IC カードを IC カードリーダに挿してください。
この時、IC カードの挿し方が不十分ですと誤作動の原因となりますのでご注意ください。

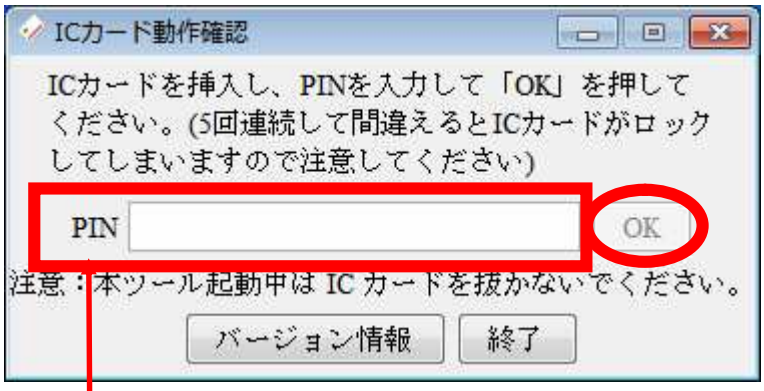
手順

① 「初期セットアップメニュー」の[IC カード動作確認]ボタンを押します。
IC カード動作確認ツール起動時に、TDB 電子認証サービス TypeA の認証局証明書が自動的にお使いのパソコンに読み込まれます。



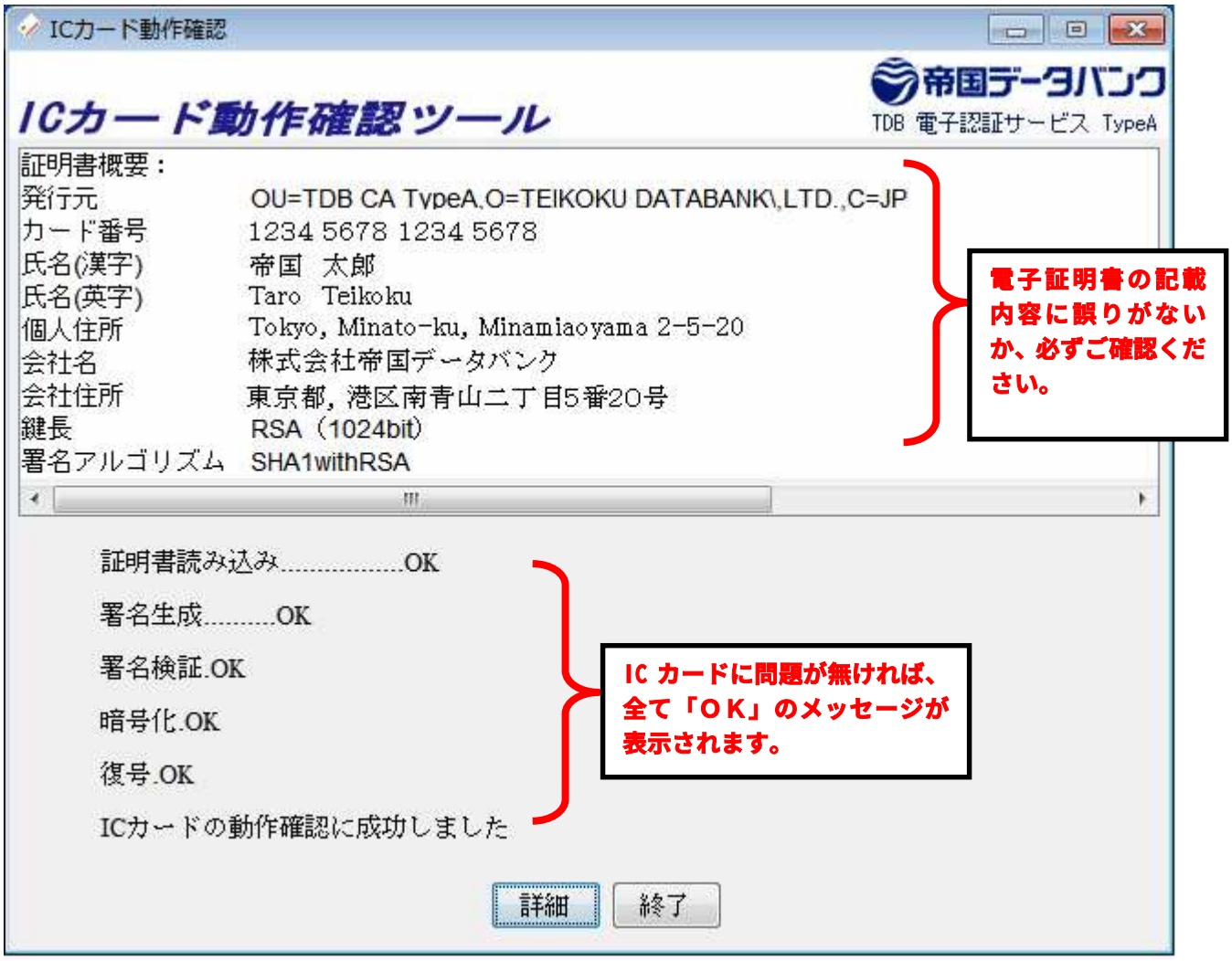
《ご参考》IC カード動作確認ツールは、[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [IC カード動作確認] を選択することでも起動できます。

② PIN 入力ウィンドウが表示されますので、IC カード用 PIN 通知書に記載された「IC カード用 PIN」（暗証番号）を入力し、[OK]ボタンを押してください。

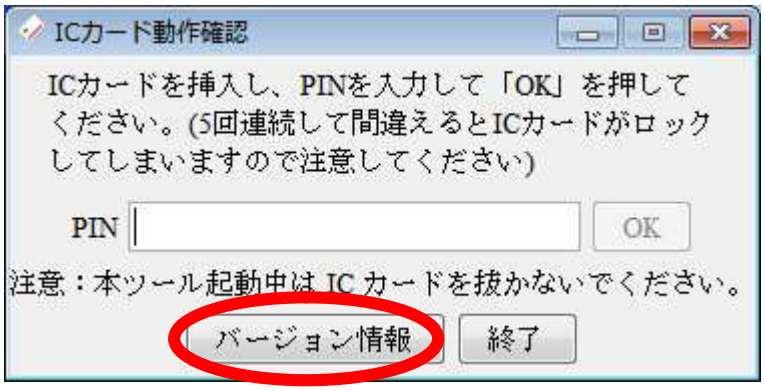


PIN を入力すると、「●または＊」が表示されます。

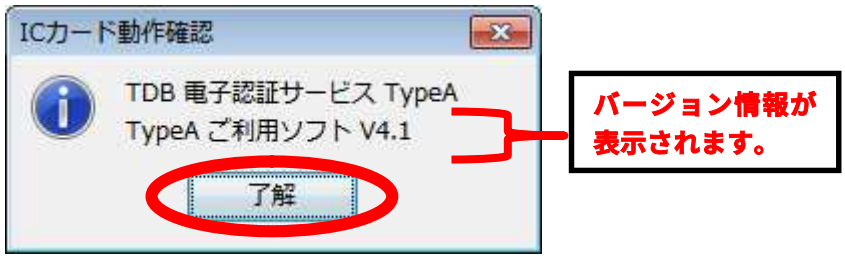
③ IC カードが正常な場合、以下のようなメッセージが表示されます。証明書の記載内容に誤りがないか確認します。確認できましたら、[終了]ボタンを押してください。



④ ご利用ソフトのバージョンを確認する場合は、「初期セットアップメニュー」の[IC カード動作確認]ボタンを押すと、以下が表示されます。[バージョン情報]ボタンを押します。

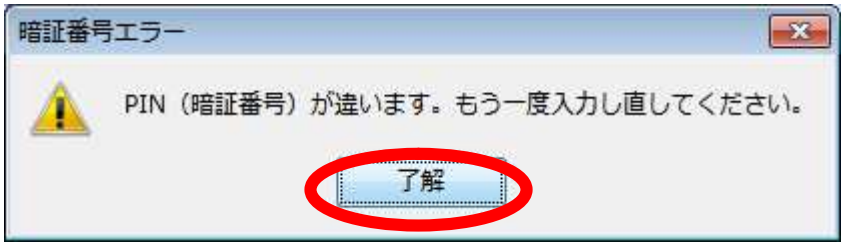


バージョン情報が表示されます。確認後は[了解]ボタンを押してください。



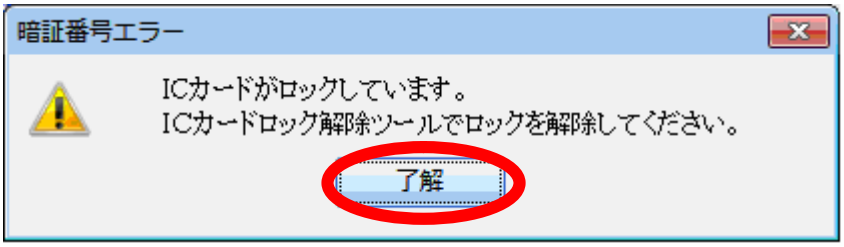
★PIN が正しく認識されない場合

PIN を入力した際、次のようなメッセージが表示された場合、PIN が間違っています。
[了解]ボタンを押して PIN をご確認の上もう一度入力してください。
５回連続して入力を間違えますと、IC カードがロックしますので、お気をつけください。
なお IC カードをロックさせてしまった場合には、IC カードのロックを解除し、使用してください（詳細は、28ページの「4.1　**IC カードロック解除ツール**」をご参照ください）。

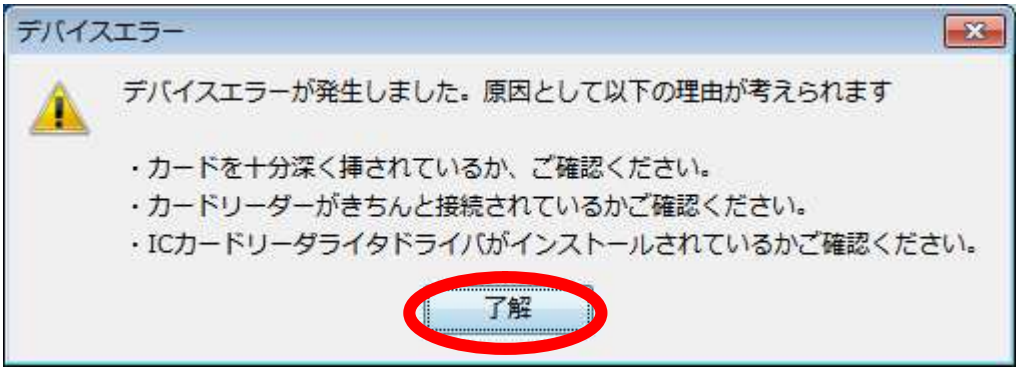


★IC カードがロックしている場合

PIN を入力した際、次のようなメッセージが表示された場合、IC カードがロックされています。
IC カードロック解除ツールでロックを解除してください。
詳細は、28ページの「4.1　**IC カードロック解除ツール**」をご参照ください。

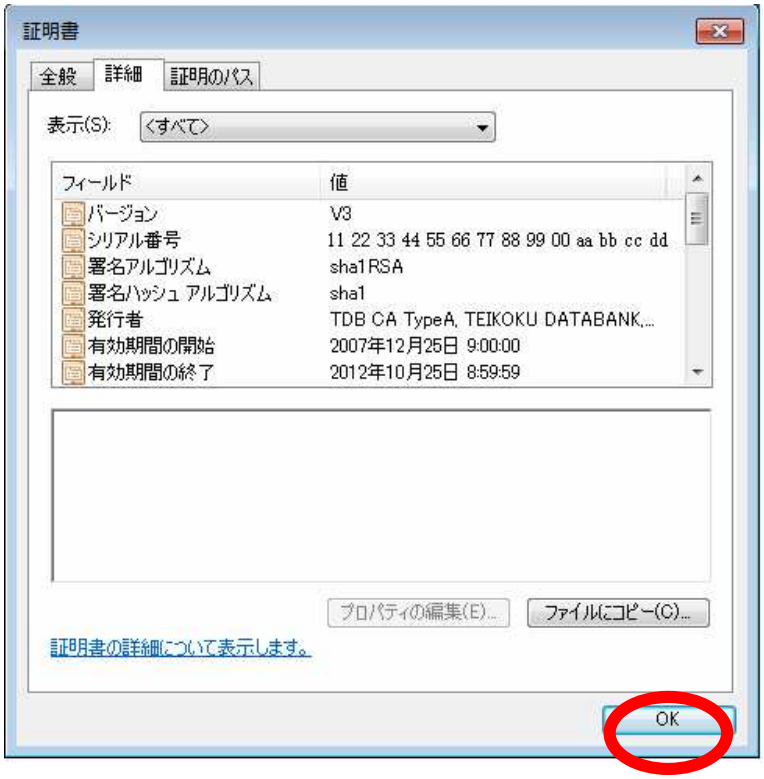


以下のようなメッセージが表示された場合、ダイアログに記載されている原因をご確認ください。



《ご参考》[詳細]ボタンを押すか、概要表示部分をダブルクリックしますと、Internet Explorer の機能を使用して、IC カード内に格納された電子証明書の詳細がご参照いただけます。

電子証明書の詳細が表示されます。終了する場合には[OK]ボタンを押してください。



3.4.2　受領書送信

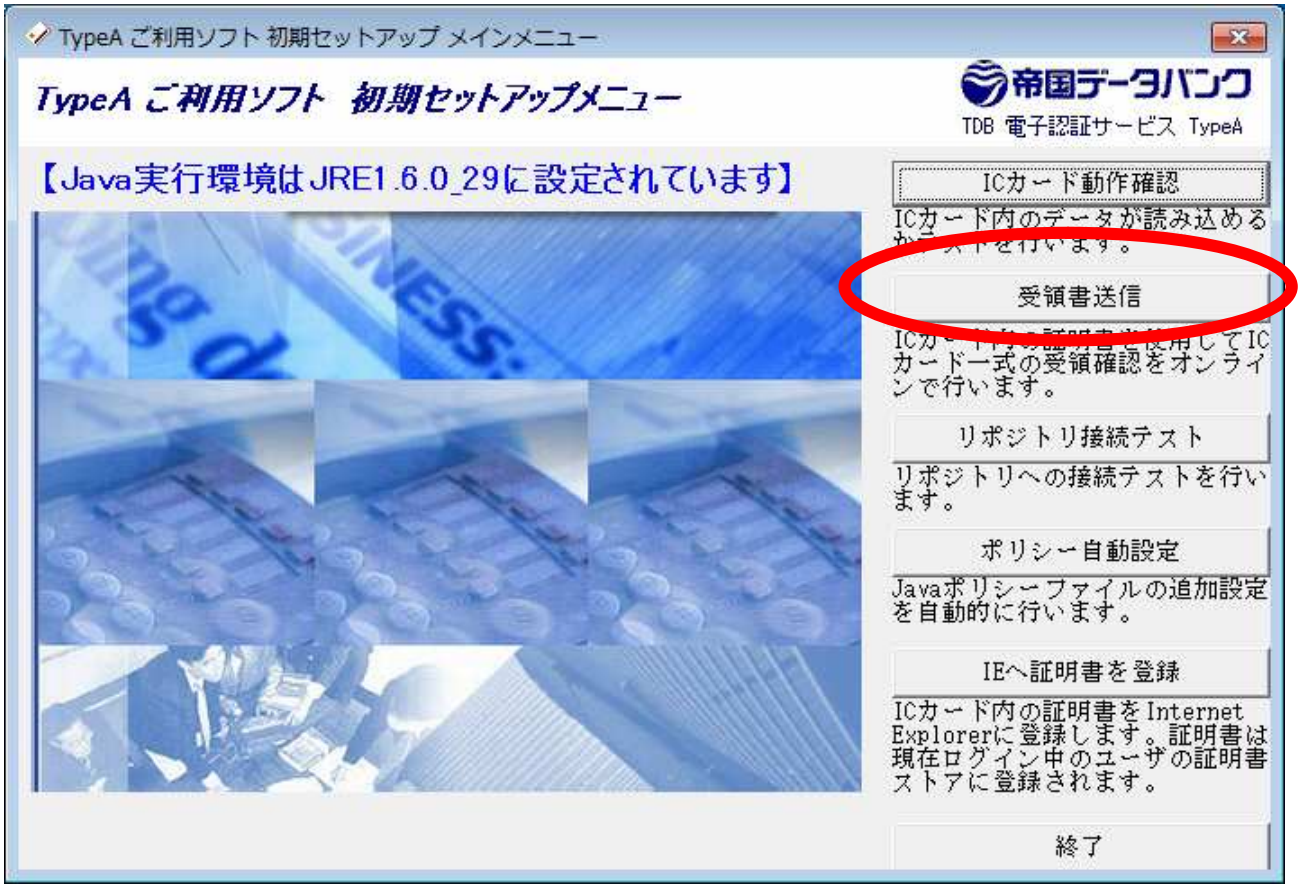
受領書送信は、お客さまご自身のICカードを確かに受領したことを、インターネットを経由して電子認証局に通知するためのもので、電子証明書の「電子署名」技術を利用しています。

準備

本作業は、お手持ちのICカード毎に行う必要があります。
「IC カード動作確認」で動作確認を行ったIC カードを用意してください。
なお、受領書送信は、電子認証局の送付日より45日以内での実施をお願いしております。
受領期限までに受領書の送信がない場合、お受け取りに際して何らかのトラブルがあったと判断し、安全のために電子証明書を失効いたしますので、受領後は速やかに実施してください。

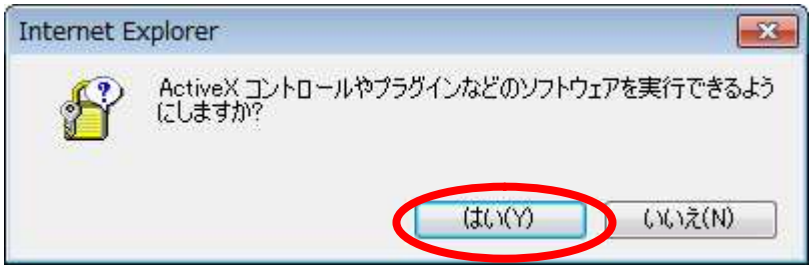
手順

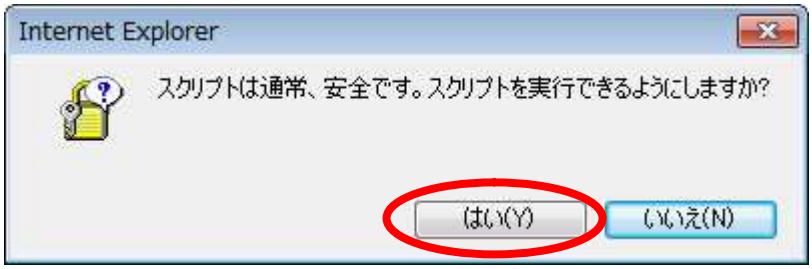
①　「初期セットアップメニュー」の[受領書送信]ボタンを押します。

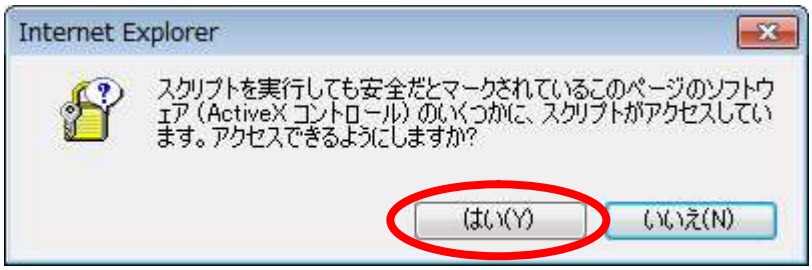


《ご参考》受領書送信ツールは、[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [受領書送信] を選択することでも起動できます。

★ Internet Explorer の設定によって、次ページのようなメッセージが表示されます。
受領書送信に必要なファイルをダウンロードするために[はい]ボタンを押してください。

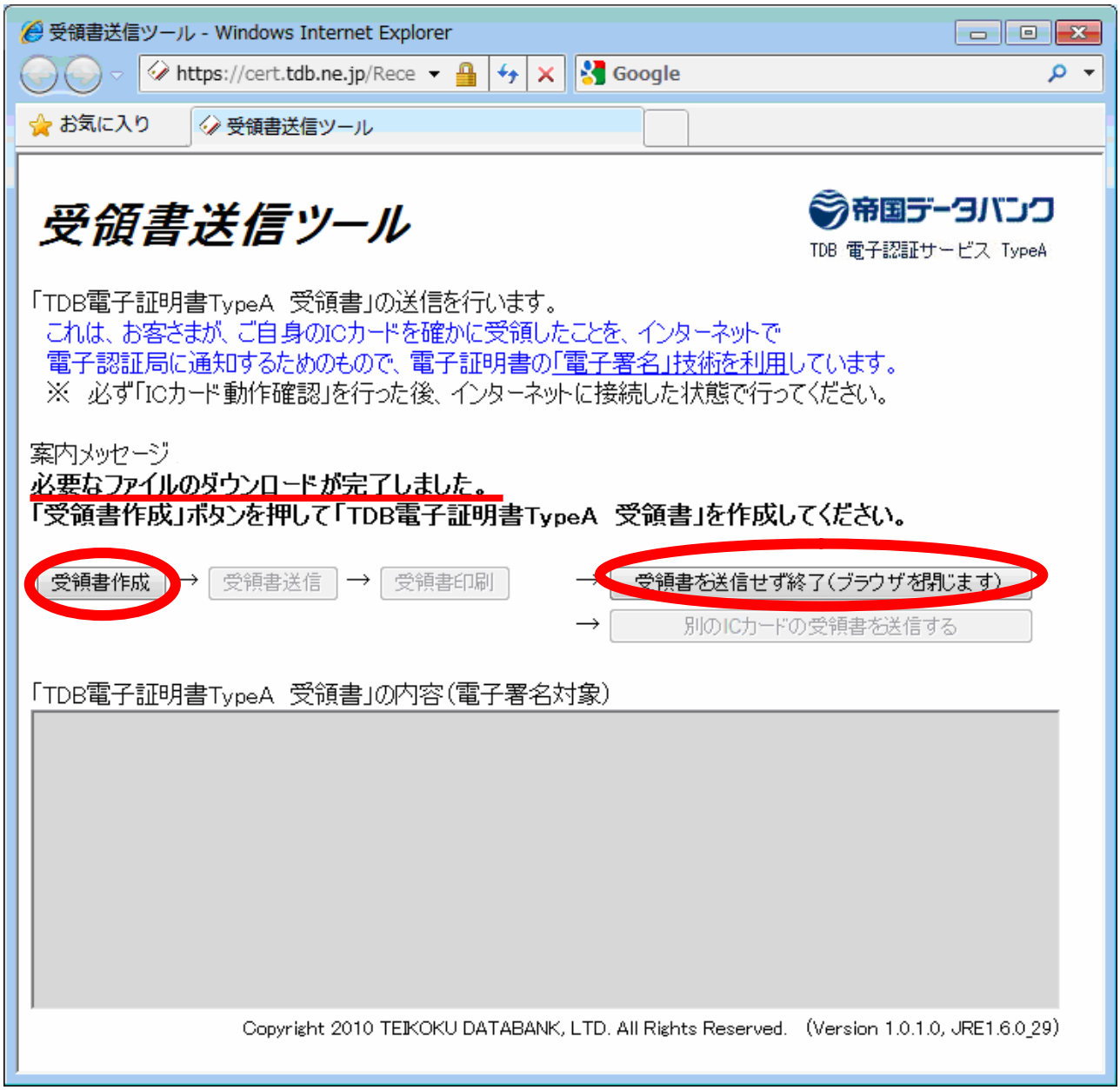




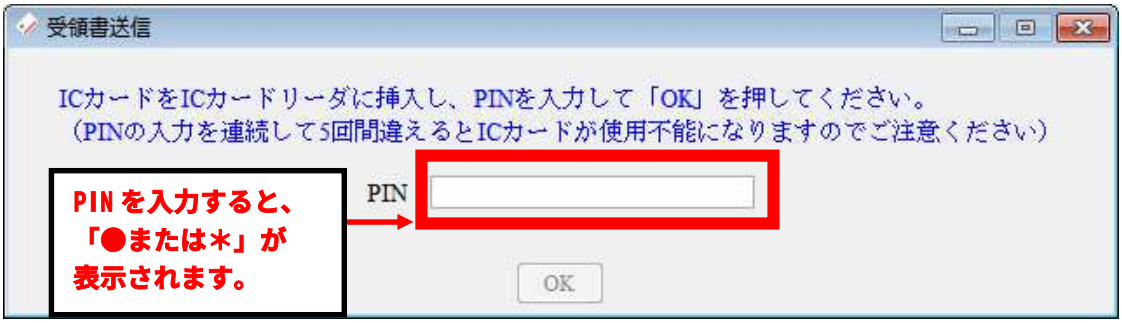


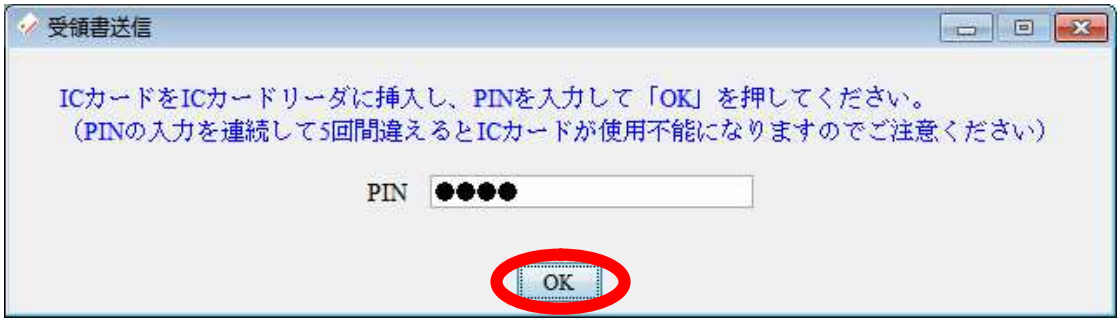
② 以下の案内画面が表示されます。「必要なファイルをダウンロードしています。」と表示されている間、しばらくお待ちください。

③ ダウンロードが完了すると、案内メッセージが以下画面のように変わります。
[受領書作成]ボタンを押してください。
受領書送信を中止する場合は、[受領書を送信せず終了（ブラウザを閉じます）]ボタンを押して、受領書送信ツールを終了させてください。



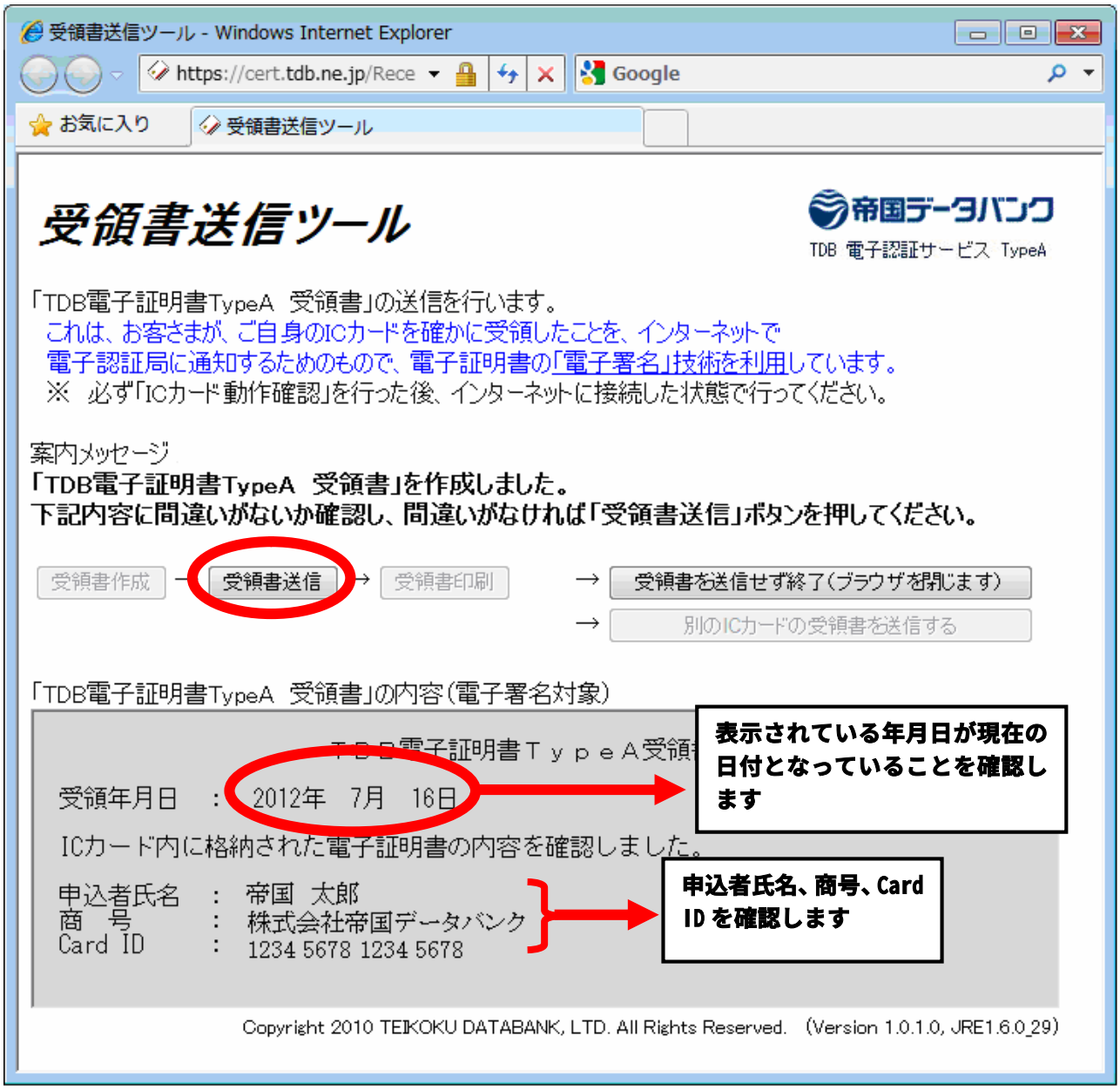
④　PIN 入力画面が表示されます。
IC カードを IC カードリーダに挿入し、PIN を入力して[OK]ボタンを押してください。



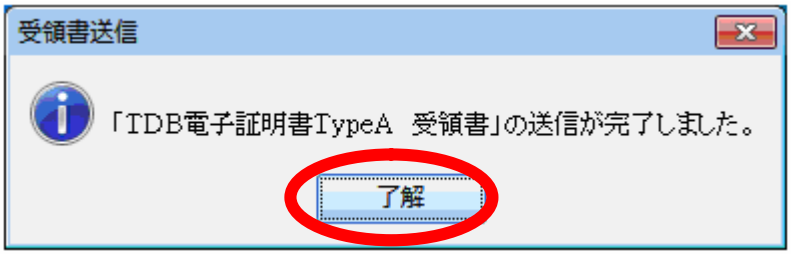


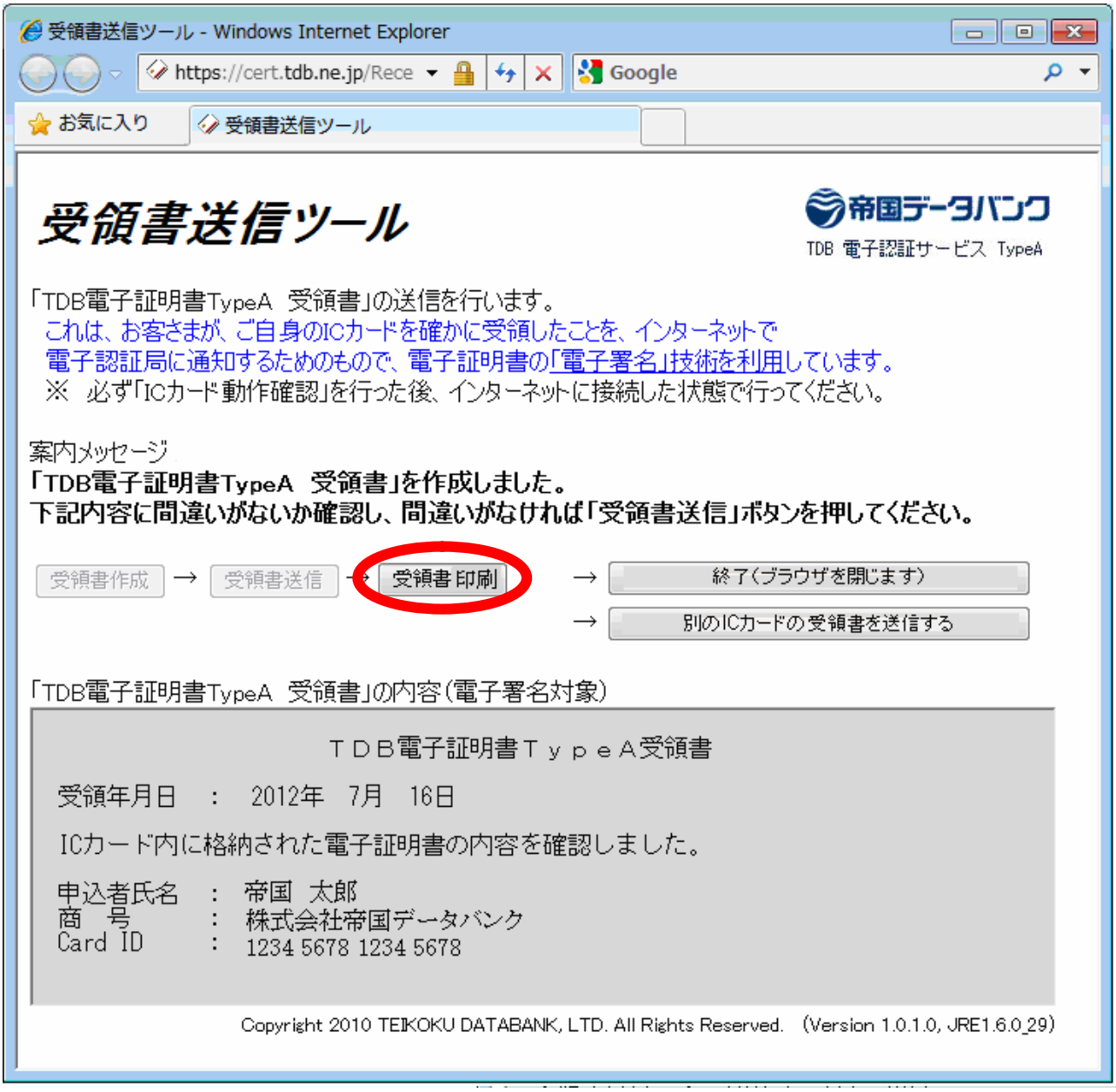
PIN を間違えたり IC カードが正しく挿入されていない場合は、エラーメッセージが表示されます。
エラーメッセージの内容と対策は「IC カード動作確認」ツールと同じです。

⑤ **以下の確認画面が表示されます。**
受領書の内容を確認し、[受領書送信]ボタンを押してください。

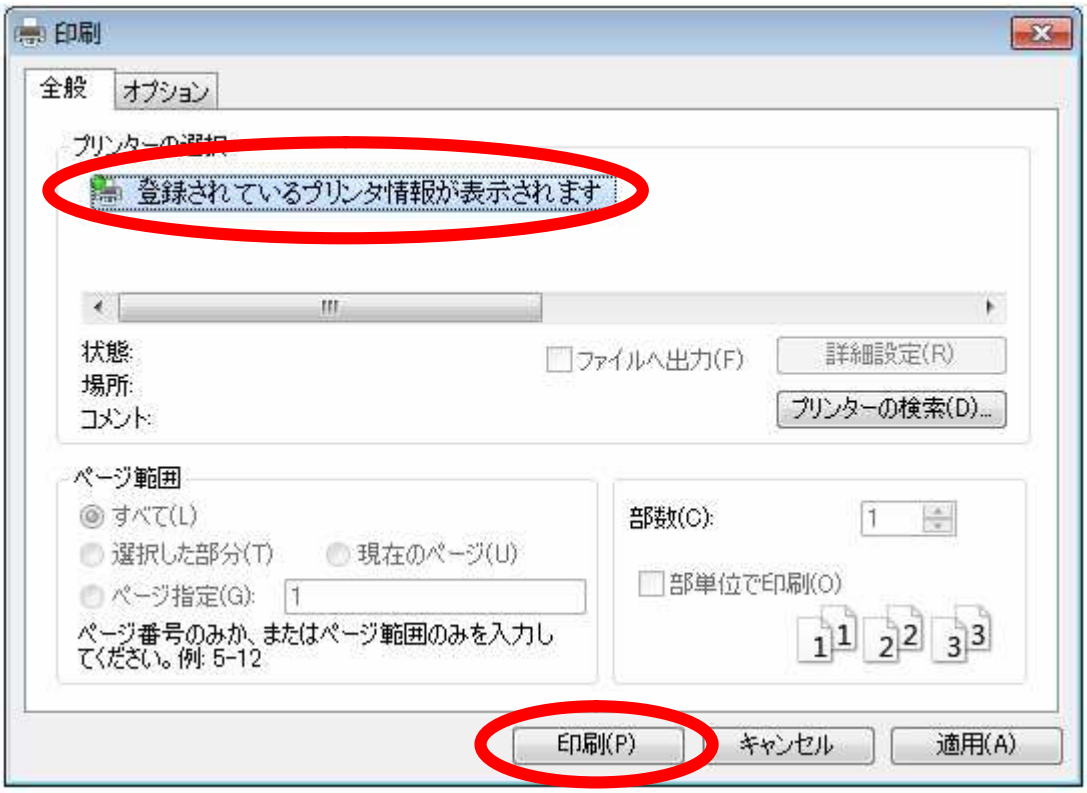


⑥ 受領書の送信に成功すると、以下の完了画面が表示されます。
「TDB 電子証明書 TypeA 受領書」の控えを印刷する場合は、[受領書印刷]ボタンを押してください。

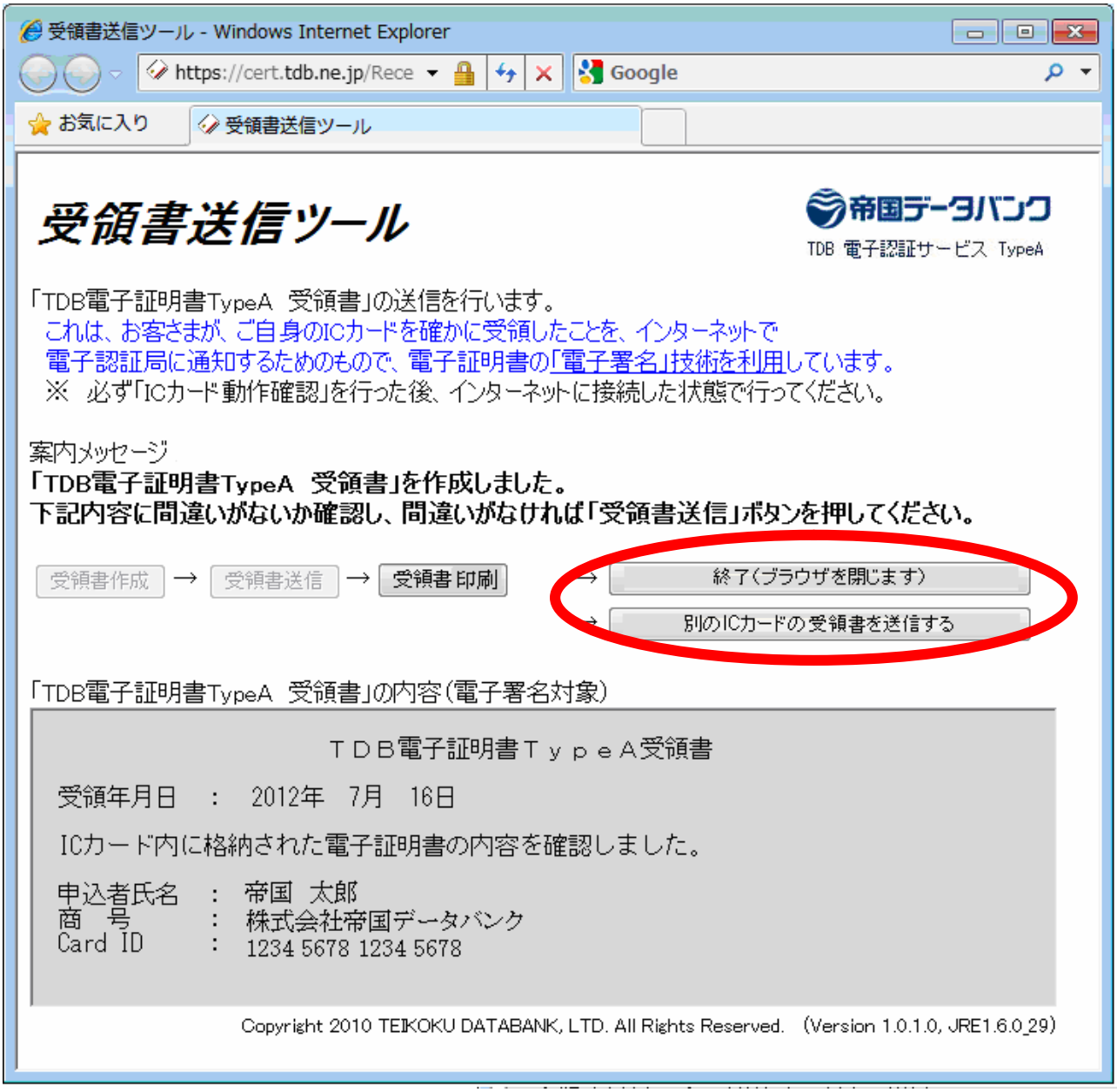




⑦ PC に設定されているプリンタの印刷画面が表示されます。「プリンタの選択」を確認し、問題なければ[印刷]ボタンを押して印刷し、控えとして大切に保管してください。



⑧ 引き続き、他 IC カードの受領書を送信する場合は[別の IC カードの受領書を送信する]ボタンを押して手順③から繰り返し操作してください。また、受領書送信を終了させる場合は[終了（ブラウザを閉じます）]ボタンを押してください。



以上で、受領書の送信は完了です。
複数枚 IC カードをお持ちの場合は、IC カード毎にそれぞれ手順③から⑧までを実施してください。

3.5　リポジトリ接続テスト

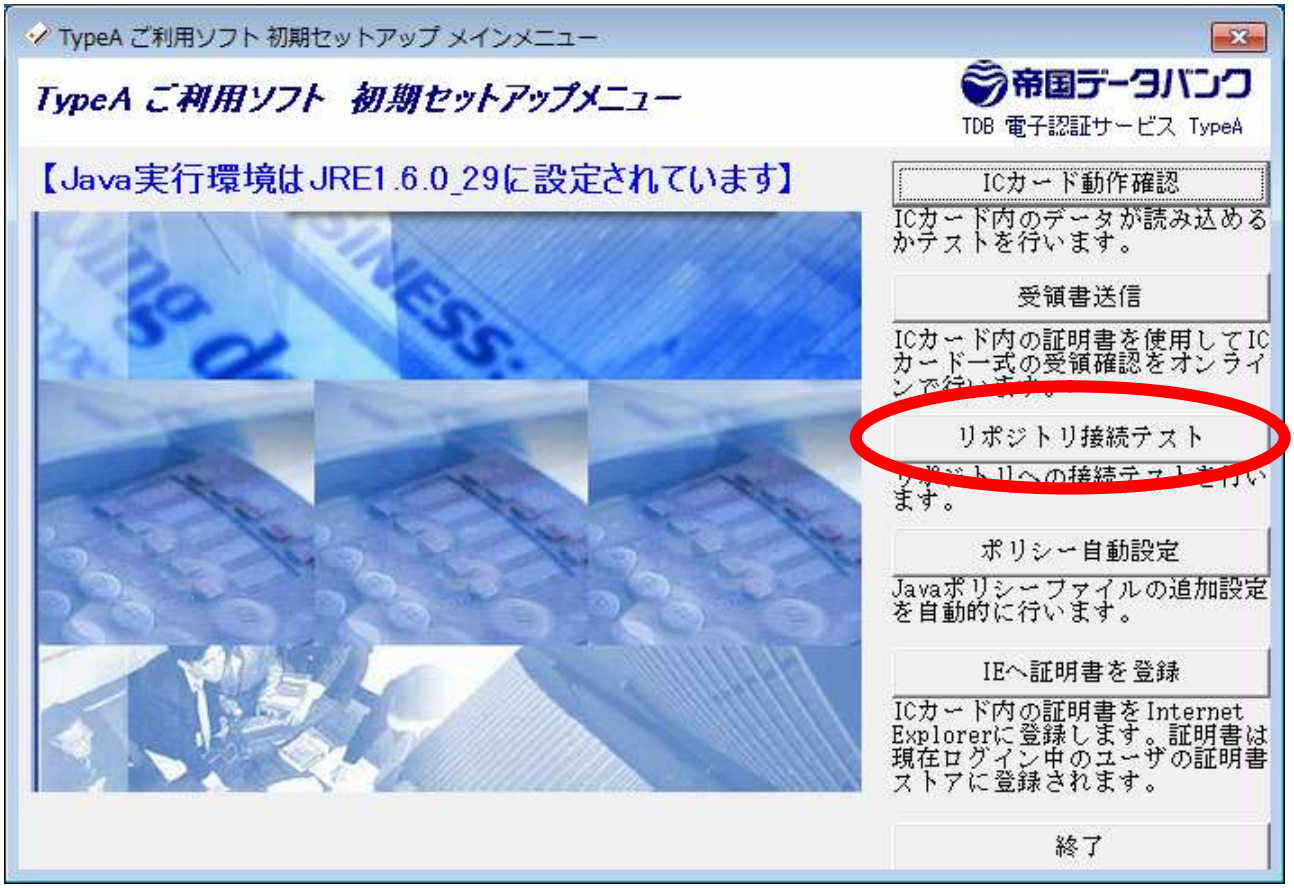
「ご利用ソフト」を使用して電子入札を行う場合には、お使いのパソコンで LDAP 通信ができる必要があります。
以下の手順にて LDAP 通信が可能であるか、テストを行います。

準備

インターネットに接続してください。

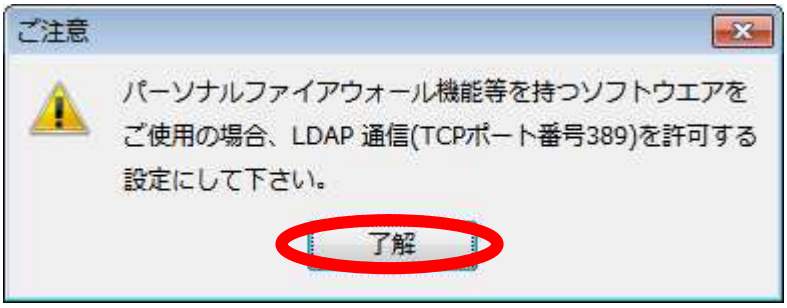
手順

① 「初期セットアップメニュー」の[リポジトリ接続テスト]ボタンを押します。

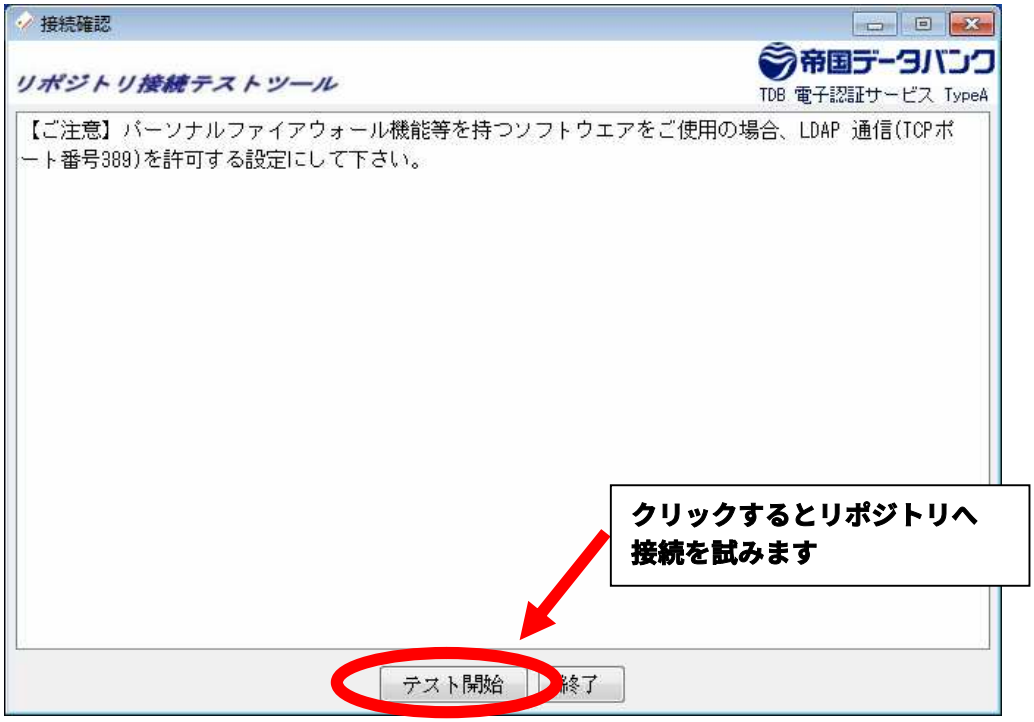


《ご参考》リポジトリ接続テストツールは、[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [リポジトリ接続テスト] を選択することでも起動できます。

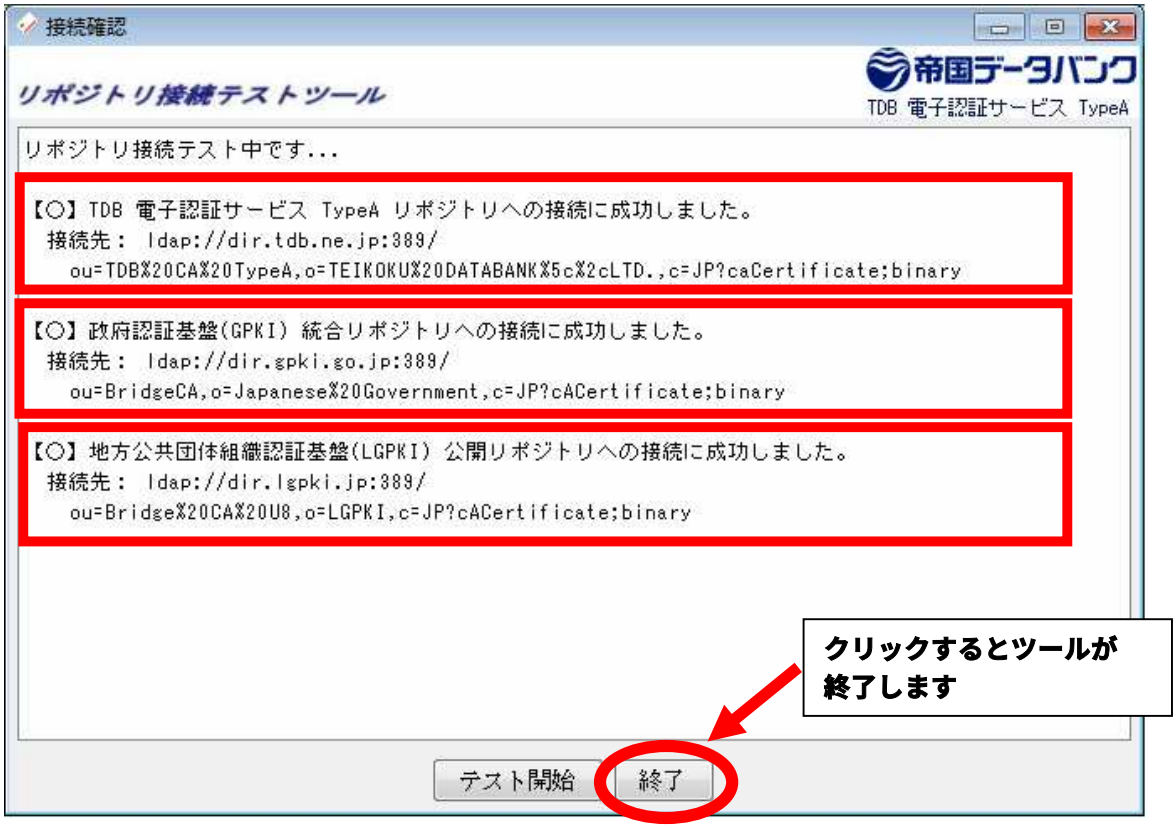
② テストツールが起動する前に、以下のメッセージが表示されます。[了解]ボタンを押してください。



③ リポジトリ接続テストツールが起動すると、以下のようなウィンドウが表示されます。[テスト開始]ボタンを押してください。



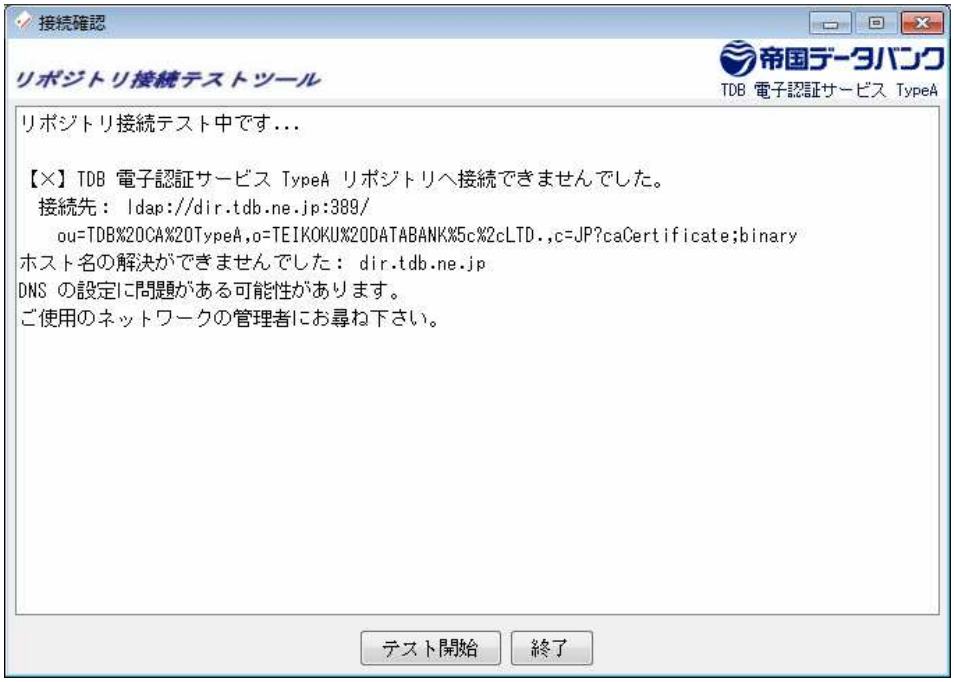
④　「接続に成功しました」というメッセージが出るとリポジトリへアクセスが可能です。
[終了]ボタンを押してツールを終了してください。



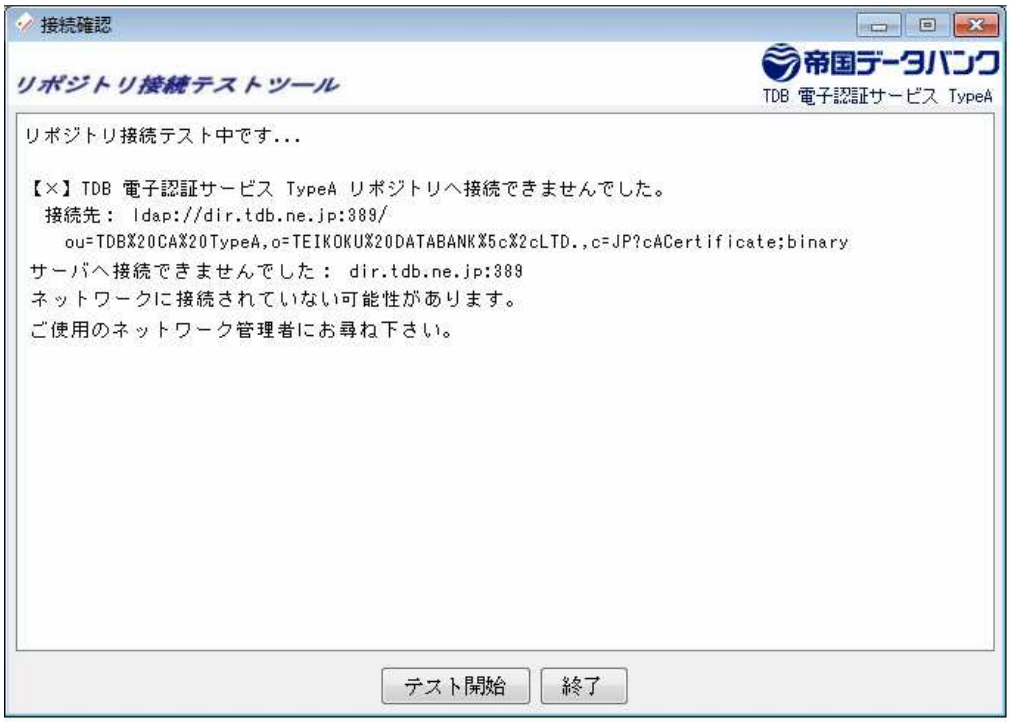
以下（A）から（E）のようなメッセージが出た場合は、ネットワークの設定が原因の可能性があります。
パソコンもしくはネットワークの管理者、プロバイダ等にお尋ねください。

※注意　お使いのパソコン・ネットワーク環境によっては以下以外のメッセージが表示される場合もあります。

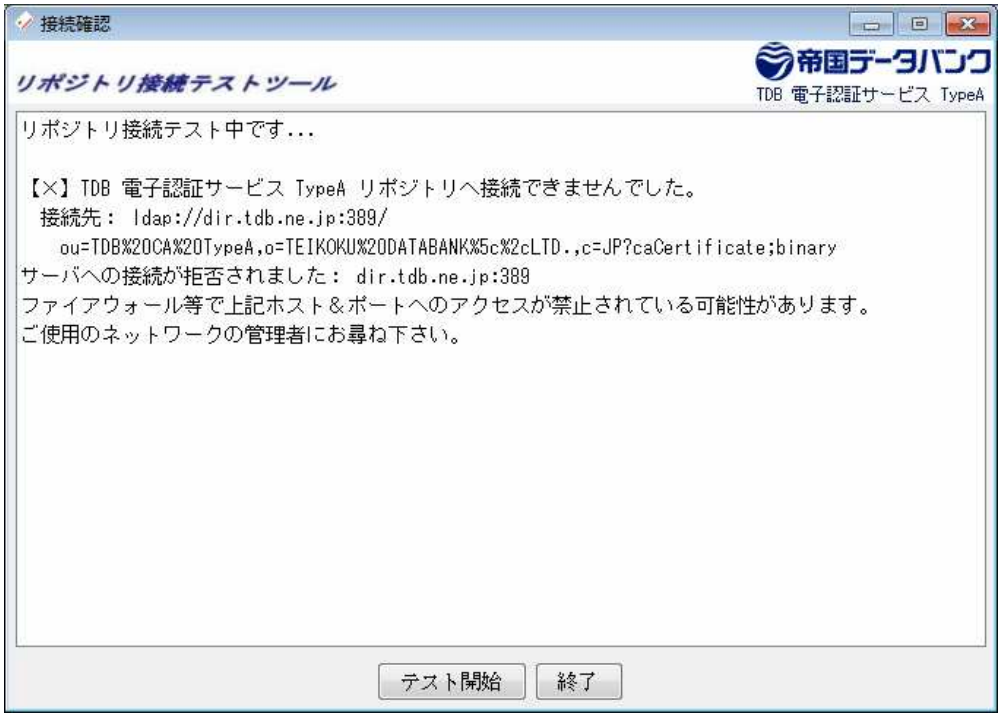
（A）DNS 参照ができない場合



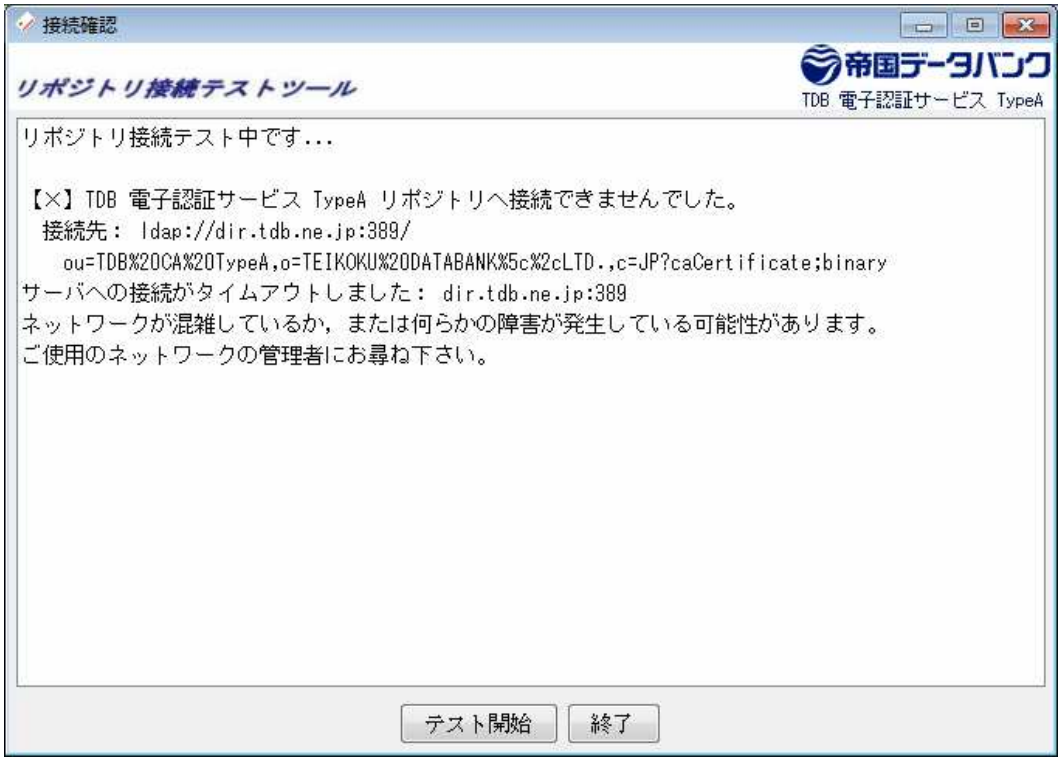
（B）サーバへの接続ができない場合



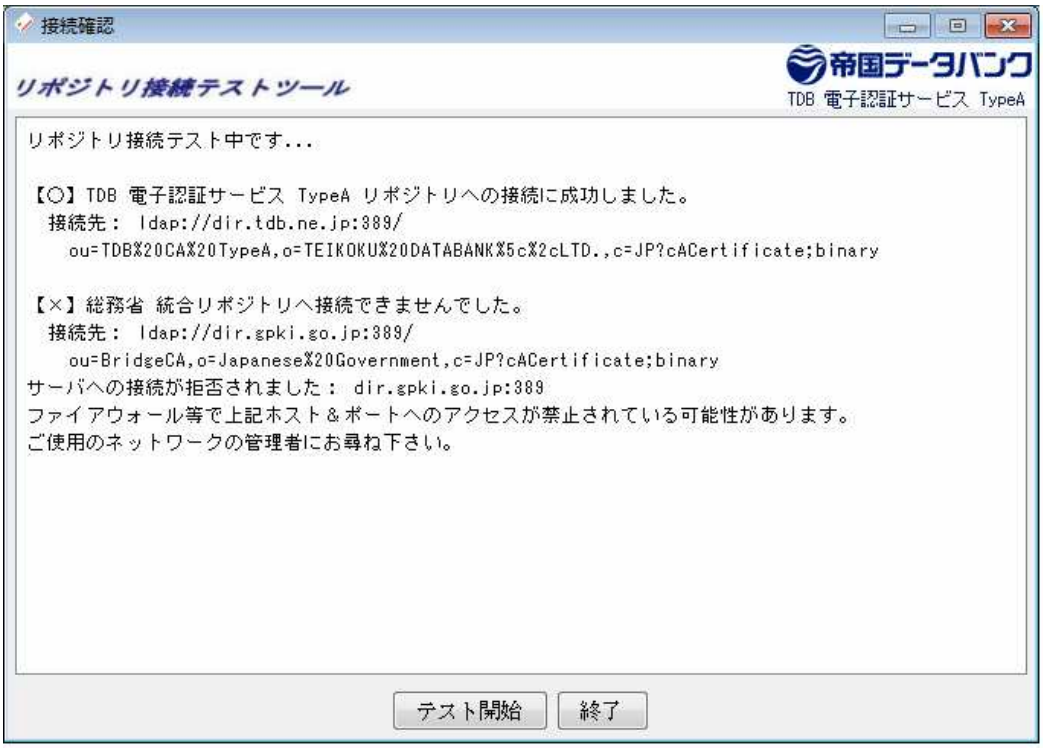
（C）サーバへの接続が拒否された場合



（D）サーバからの応答がなかった場合



（E）サーバへの接続が拒否された場合



3.6　セキュリティポリシー設定

セキュリティポリシーとは、Java 実行環境の動作を制御するための設定ファイルのことです。
電子入札コアシステムでは、セキュリティポリシーに発注機関用の設定情報を必ず設定する必要があります。

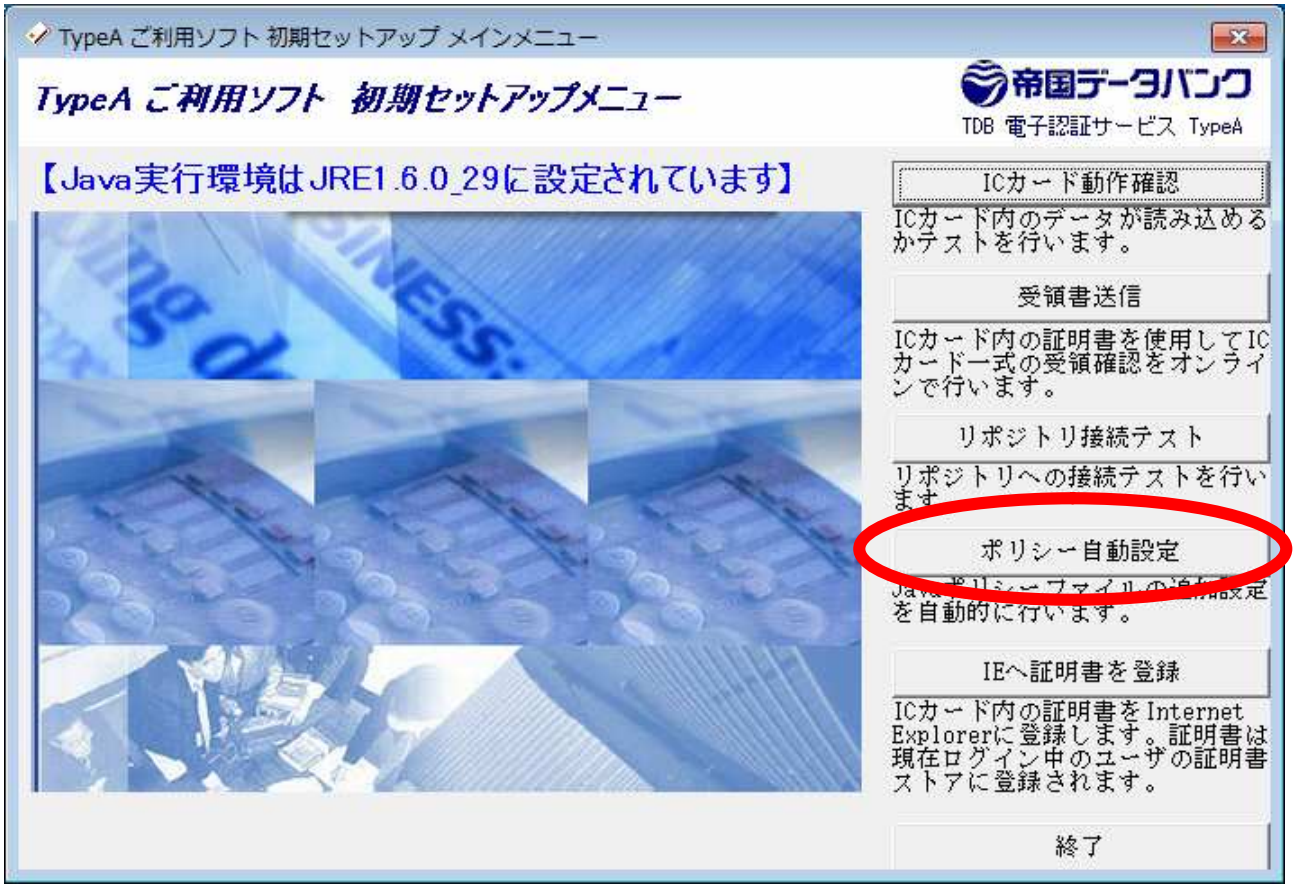
準備

インターネットに接続してください。

本作業は管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

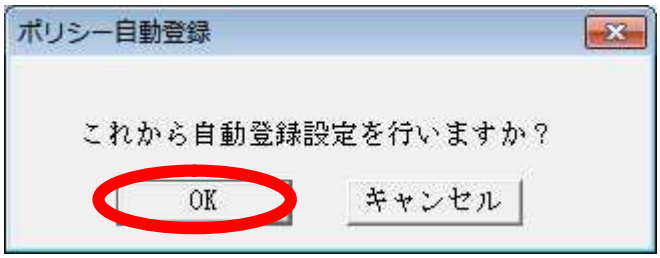
手順

①　「初期セットアップメニュー」の[ポリシー自動設定]ボタンを押します。

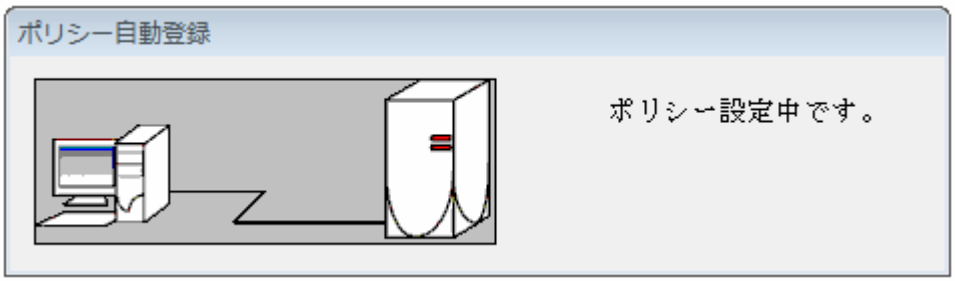


《ご参考》セキュリティポリシーの自動設定は、[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [ポリシー設定] を選択して「ポリシー設定ツール」を起動し、ポリシー設定ツール画面からも行うことができます。

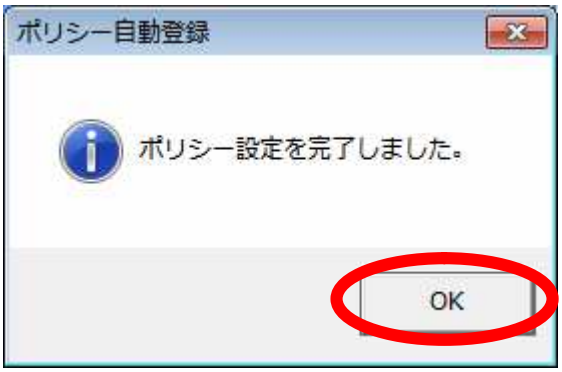
② 以下のようなメッセージが表示されますので、[OK]ボタンを押します。



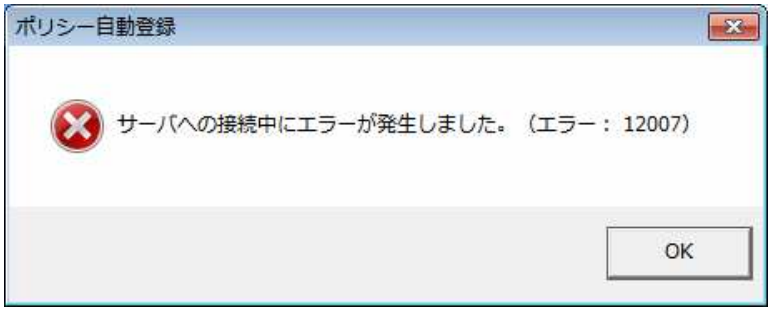
③ 以下のようなポリシー設定中のメッセージが表示されます。



④ポリシー設定が完了すると、以下のようなメッセージが表示されます。[OK]ボタンを押してください。



以下のようなメッセージが表示された場合は、ネットワーク設定が原因の可能性があります。
Internet Explorer のネットワーク設定においてプロキシサーバ等の設定が正しく行われているか、パソコンもしくはネットワークの管理者、プロバイダ等にお尋ねください。



※注 お客さまのパソコン・ネットワーク環境によっては上記以外のメッセージが表示される場合もあります。

3.7 Internet Explorer への証明書登録

Internet Explorer へ証明書を登録します。

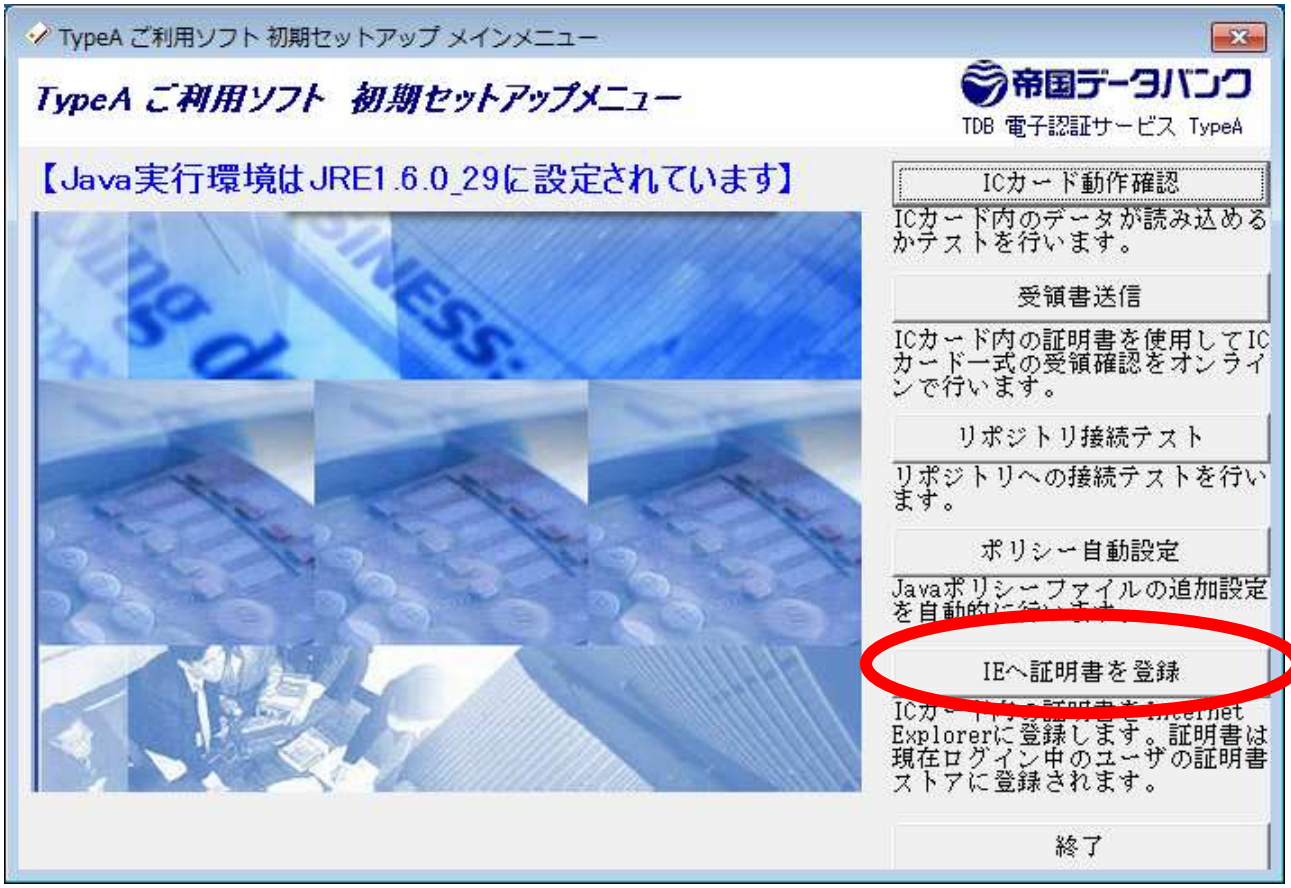
準備

本作業は、お手持ちの IC カード毎に行う必要があります。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

IC カードリーダがお使いのパソコンに接続されていることを確認して、IC カードを IC カードリーダライタに挿してください。
この時、IC カードの挿し方が不十分ですと誤作動の原因となりますのでご注意ください。

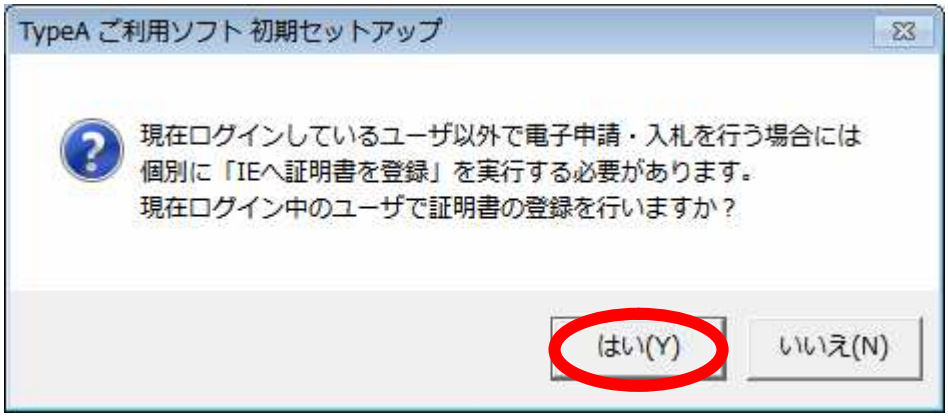
手順

① 「初期セットアップメニュー」の[IE へ証明書を登録]ボタンを押します。



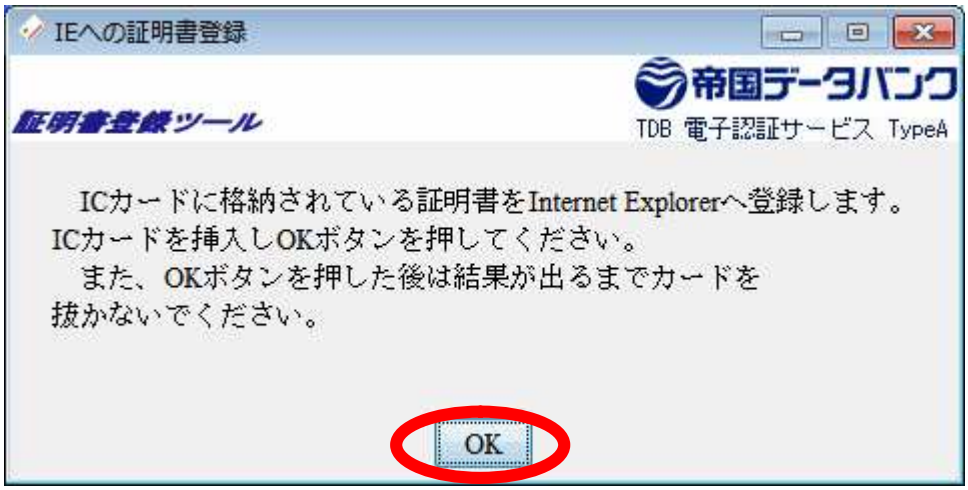
《ご参考》IE への証明書登録ツールは、[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [IE へ証明書を登録] を選択することでも起動できます。

② 以下のようなメッセージが表示されますので、メッセージ内容をご確認の上、[はい]ボタンを押してください。

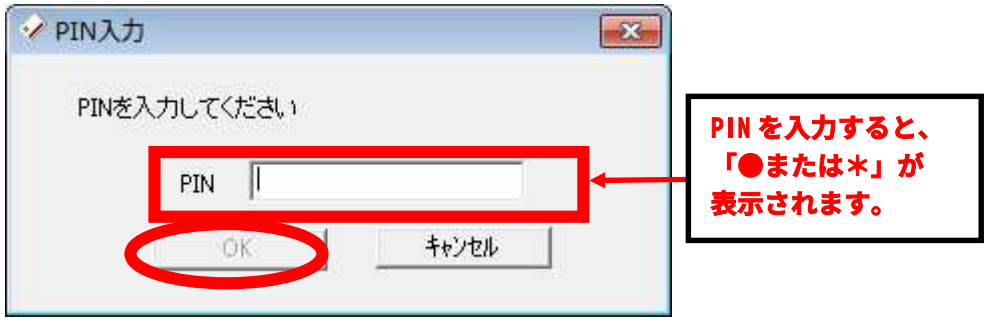


※注 Internet Explorer での証明書管理はユーザ毎に行なわれているため、電子申請・入札を行うユーザ毎に Internet Explorer への証明書登録を行う必要があります。

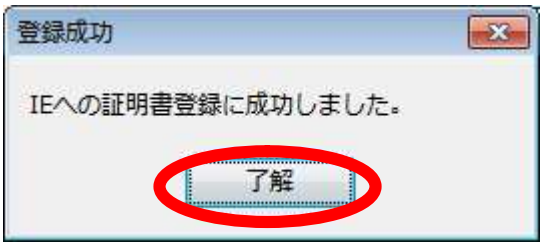
③ 以下のようなメッセージが現れますので、メッセージをご確認の上、[OK]ボタンを押してください。



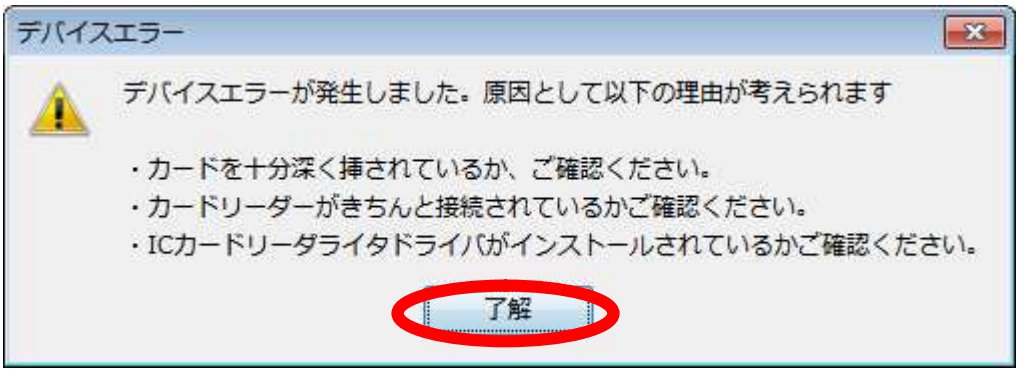
④ [OK]ボタンを押すと以下のようなウィンドウが表示されます。
ここで PIN を入力し、[OK]ボタンを押してください。
正しい PIN を入力されますと、Internet Explorer へ証明書の登録処理を開始します。



⑤　登録処理が正常に行われた場合は、以下のメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押してツールを終了してください。



★以下のようなメッセージが表示された場合、ダイアログに記載されている原因をご確認ください。



以上で初期セットアップ（環境設定）は終了です。

4 クライアントツール

この章の設定は、通常は行う必要はありません。
必要に応じて設定を行ってください。

4.1 IC カードロック解除ツール

IC カードは安全のため、PIN を 5 回連続して誤入力するとロックがかかります。
ロックを解除する手順を以下に示します。

準備

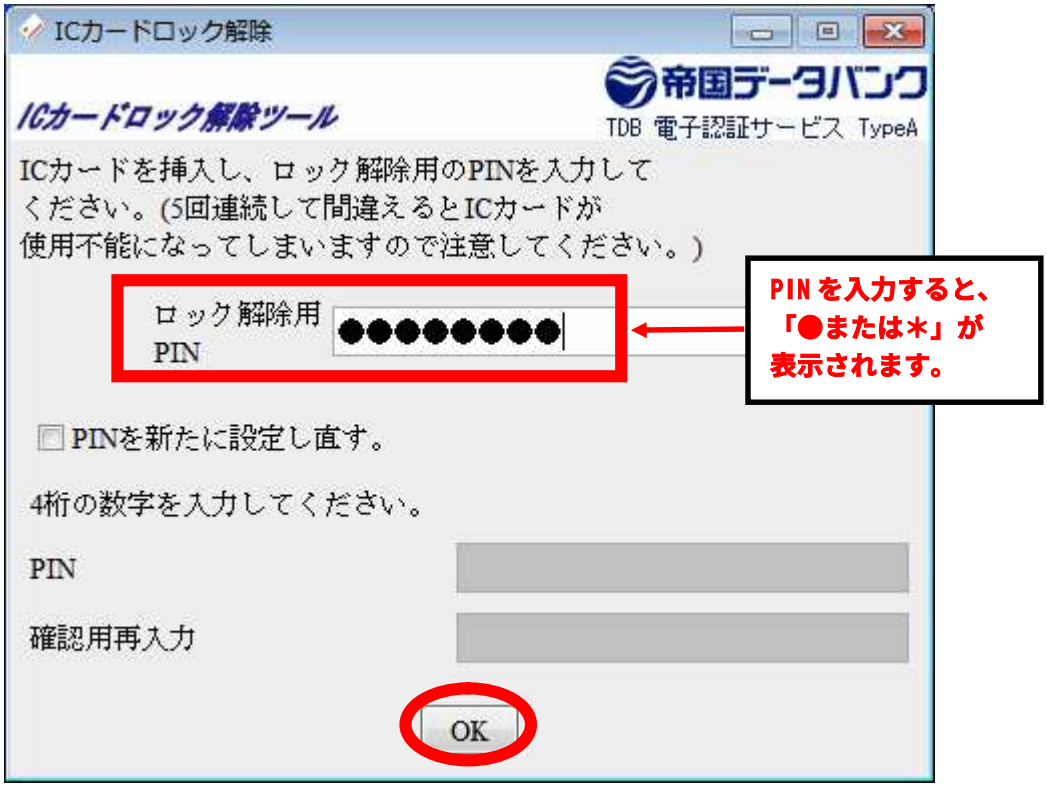
IC カードリーダがお使いのパソコンに接続されていることを確認して、IC カードを IC カードリーダに挿してください。
この時、IC カードの挿し方が不十分ですと誤作動の原因となりますのでご注意ください。

起動

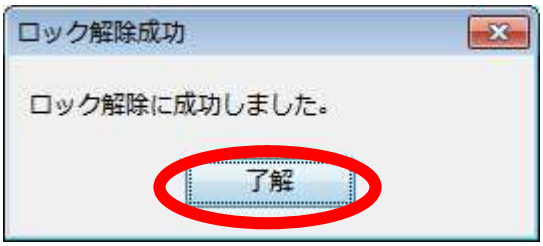
インストールフォルダ（デフォルトは C:¥Program Files¥Tdb¥TDBCATypeA、Windows7(64bit)の場合は C:¥Program Files(x86)¥Tdb¥TDBCATypeA）の下にある[IC カードロック解除のショートカット]をダブルクリックしてください。

（a）ロック解除

① ツールが立ち上がりますと以下のようなウィンドウが表示されます。
IC カードロック解除用 PIN を入力し、[OK]ボタンを押してください。

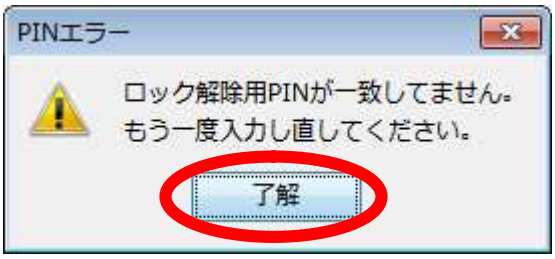


② ロックの解除に成功すると以下のようなメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押して終了してください。

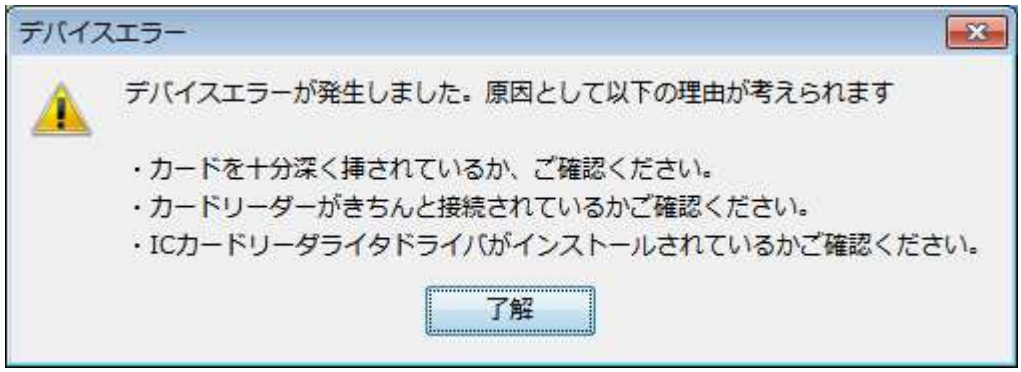


★以下のようなメッセージが表示された場合、IC カードロック解除用 PIN が間違っています。
[了解]ボタンを押して IC カードロック解除用 PIN をご確認の上もう一度入力してください。

※注 IC カードロック解除用 PIN を 5 回連続して誤入力すると IC カードが使用不能になりますのでご注意ください。

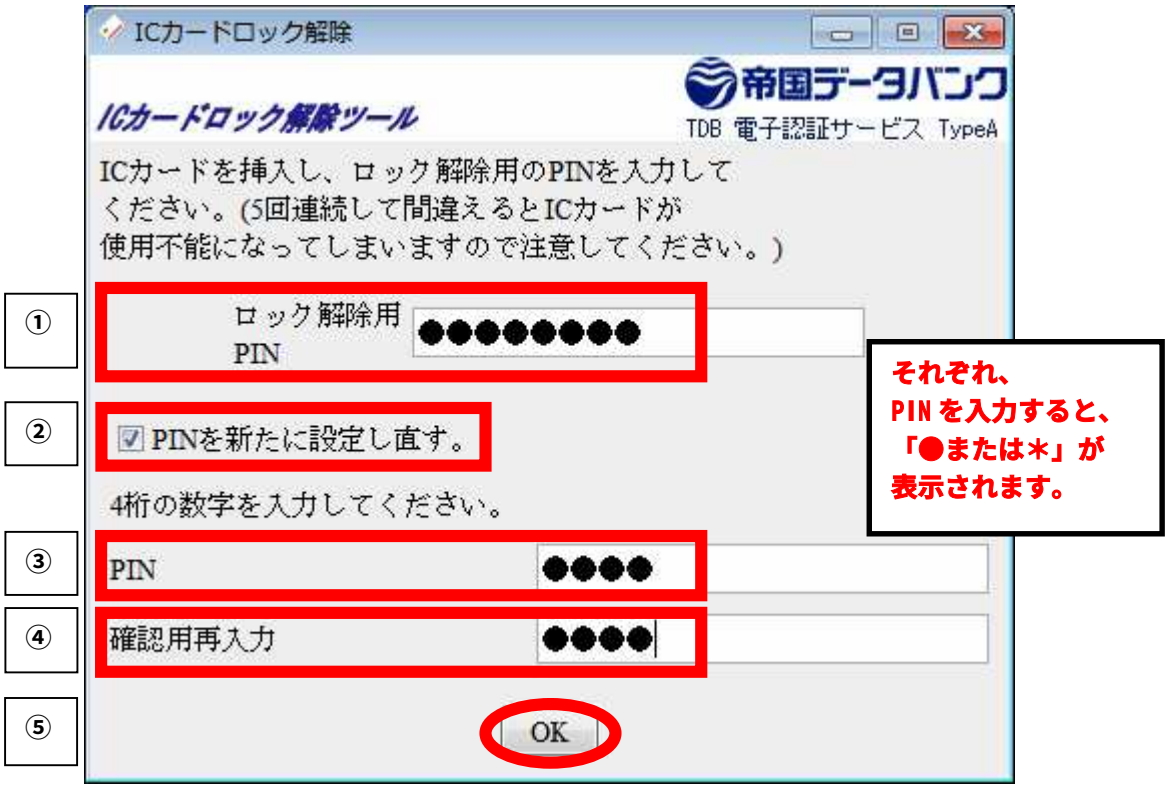


★以下のようなメッセージが表示された場合、ダイアログに記載されている原因をご確認ください。



(b) PIN 変更

IC カードロック解除ツールは PIN を忘れてしまった方のために、PIN を変更する機能を備えています。PIN を変更する時は以下の手順で操作を行ってください。



① IC カードロック解除用 PIN を入力します。

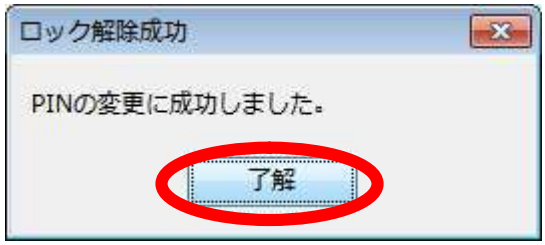
② [PIN を新たに設定し直す。]のチェックボックスにチェックを入れます。

③ 新しい PIN を入力します。

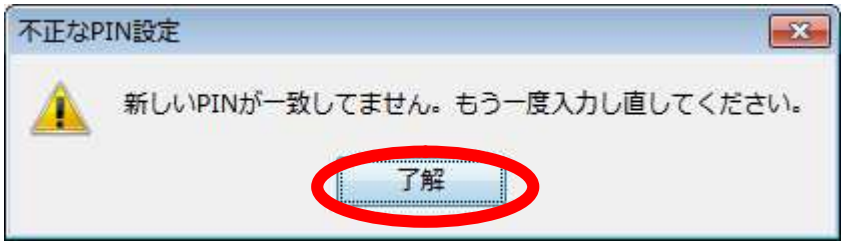
④ もう一度新しい PIN を入力します。

⑤ [OK]ボタンを押します。

⑥ PIN の変更が成功しますと以下のようなメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押して、ツールを終了させてください。



一回目に入力した新しい PIN と二回目に入力した新しい PIN が一致しない場合、以下のようなメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押して再度新しい PIN を入力し直してください。



4.2 認証局証明書管理ツール

各地方自治体等での電子入札システムに参加する際、発注機関の指示により指定の「認証局証明書」を追加する必要があります。
必要に応じて設定を行ってください。

準備

本作業は管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。

IC カードリーダがお使いのパソコンに接続されていることを確認して、IC カードを IC カードリーダに挿してください。
この時、IC カードの挿し方が不十分ですと誤作動の原因となりますのでご注意ください。

起動

[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [認証局証明書管理]を選び、「認証局証明書管理ツール」を起動します。

（a）認証局証明書一覧表示

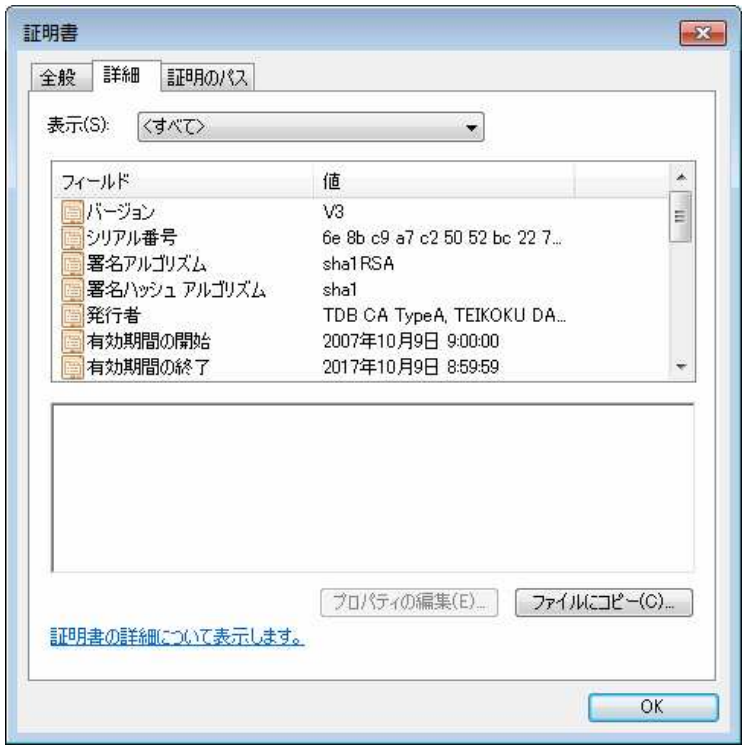
ツールが立ち上がりますと、上記のようなウィンドウが表示されます。
青字は TDB の認証局証明書をあらわしています。黒字は電子入札コアシステム対応認証局を表しています。緑字はその他の認証局を表しています。

(b) 詳細表示

証明書の詳細を表示するには以下の手順で操作を行ってください。

① 詳細を表示させたい証明書を選択します。
② [詳細]ボタンを押します。

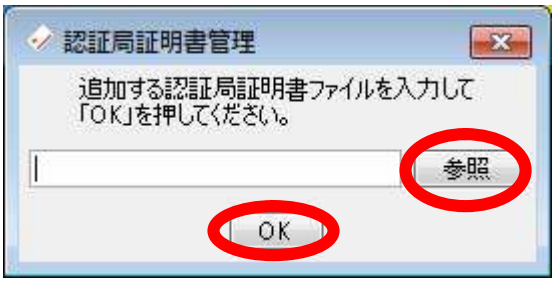
[詳細]ボタンを押すと以下のようなウィンドウが表示されます。



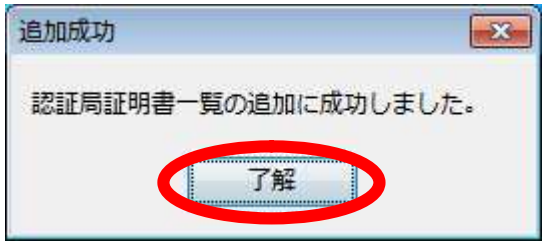
（c）証明書の追加

① 証明書の追加を行うには[追加]ボタンを押してください。

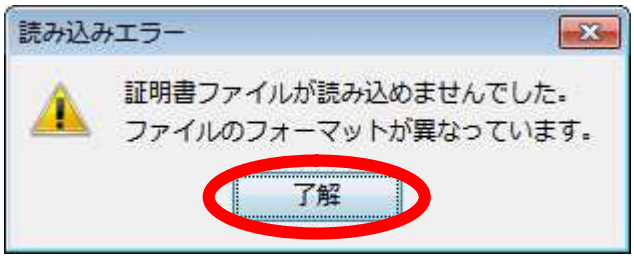
② [追加]ボタンを押すと以下のようなダイアログが表示されます。
[参照]ボタンを押して、追加するファイルを選んでください。選択が終わったら[OK]ボタンを押してください。



③ 証明書の追加に成功すると、以下のようなメッセージが表示されます。
[了解]ボタンを押してください。



★証明書の追加に失敗した場合、以下のようなメッセージが表示されます。追加しようとしたファイルが証明書ファイルでないか、もしくはファイル自体が壊れている可能性があります。追加するファイルが証明書ファイルであるか、またファイル自体が壊れていないか、ご確認後、再度追加作業を行ってください。



④ 証明書一覧画面に戻ると登録した証明書の発行元が緑字で追加されていることを、ご確認ください。

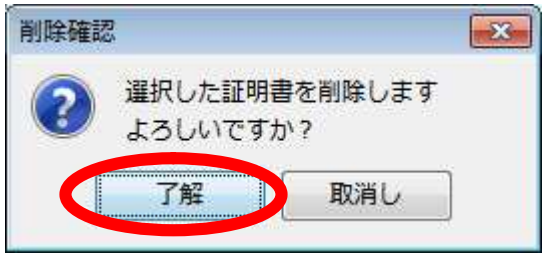
（d）証明書の削除

証明書を削除するには以下の手順で操作を行ってください。

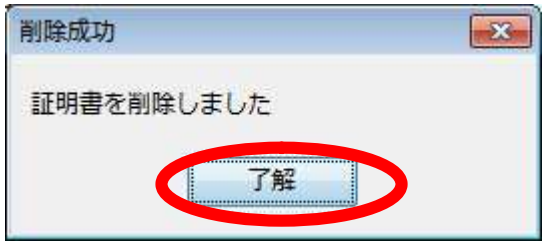
※　削除可能な証明書は緑字で表示されている証明書のみです。その他の証明書を削除することはできません。

①　表示されている証明書を選択します。

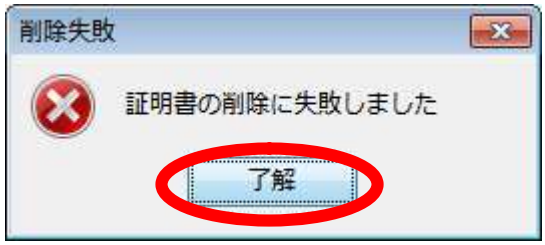
②　[削除]ボタンを押します。
以下のような確認ダイアログが表示されます。
削除する場合は[了解]ボタンを押してください。



③　削除に成功すると以下のようなメッセージが表示されます。[了解]ボタンを押すと一覧表示画面へ戻ります。



削除に失敗した場合、以下のようなメッセージが表示されます。この場合は証明書保管庫が壊れている可能性があります。
この場合は、ご利用ソフトをアンインストール後に、再度インストールする必要があります（詳細は『TypeA ご利用ソフト取扱説明書』５．アンインストールをご参照ください）。



④証明書一覧画面に戻ると選択した証明書が一覧から削除されていることをご確認ください。

4.3　ポリシー設定ツール

ポリシー設定ツールは、セキュリティポリシーを手動で設定するツールです。
通常は、23ページ「3.6　**セキュリティポリシー設定**」で自動設定することを推奨します。

手動で設定する場合は、本節の手順に従って設定してください。
セキュリティポリシーの設定を誤ると接続したサーバから不正にアクセスされる恐れがあります。
本設定は十分注意して行うようにしてください。

準備

本作業は管理者権限を持つユーザ（Administrator グループのユーザ）で行ってください。
また、全ての Windows プログラムを必ず終了してから行うようにしてください。

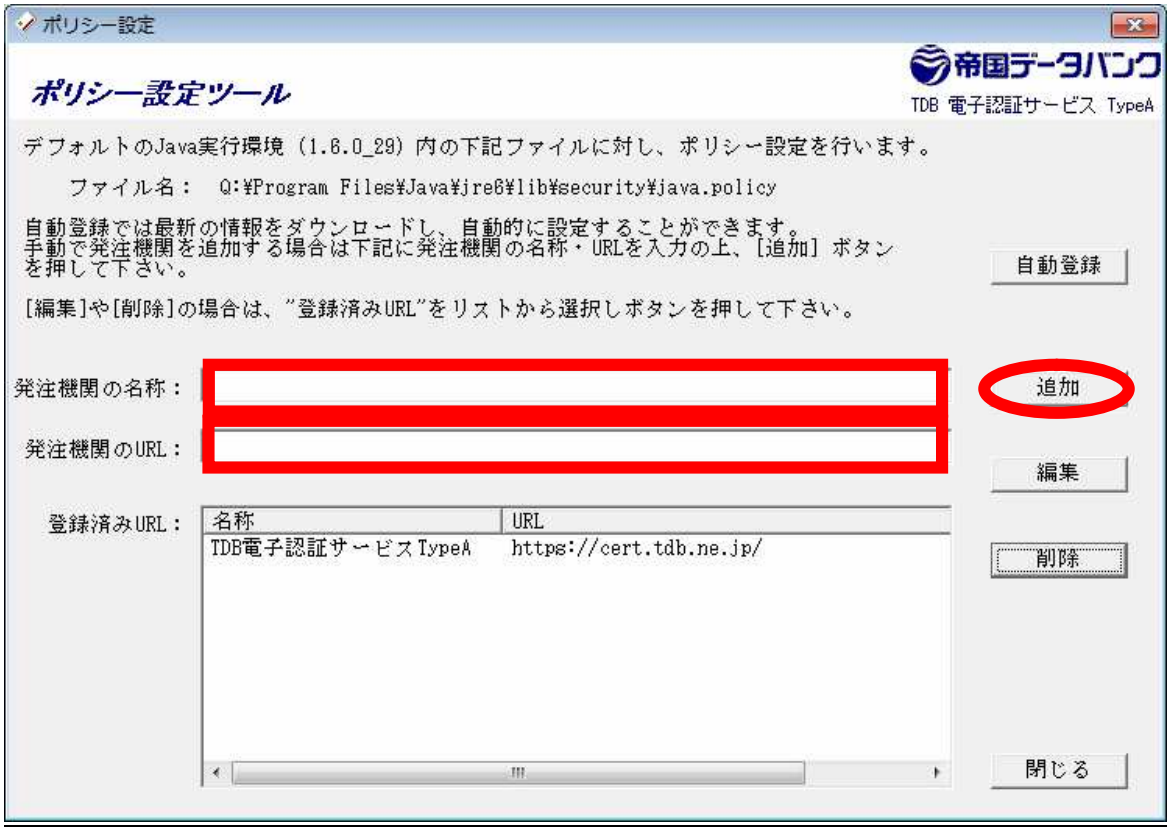
各発注機関の URL を用意しておいてください。
URL につきましては、各発注機関の「環境設定ツール」に関する箇所をご覧ください。

手順

（a）発注機関の名称または URL の追加

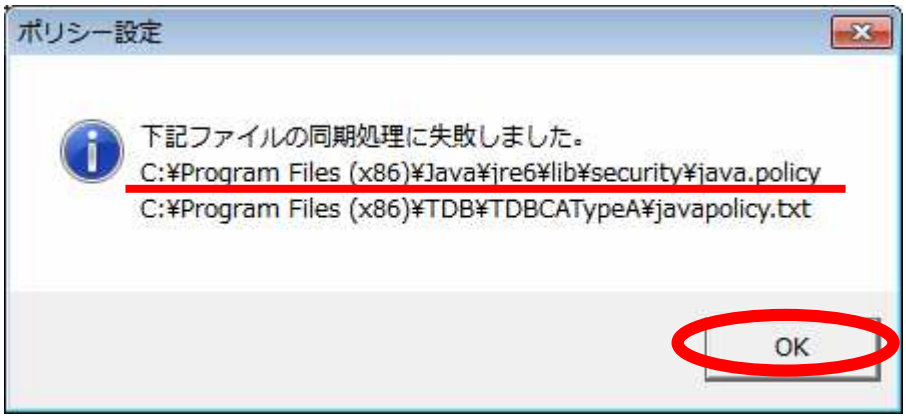
① [スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [ポリシー設定] を選び、「ポリシー設定ツール」を起動します。
処理を中止する場合は、[閉じる]ボタンを押してダイアログを終了させてください。

② 以下のようなメッセージが現れますので、メッセージをご確認の上、発注機関の名称と URL を入力し、[追加]ボタンを押してください。
発注機関の名称の入力は必須ではありませんが、入力されますと判別しやすくなりますので入力していただくことをお奨めいたします。



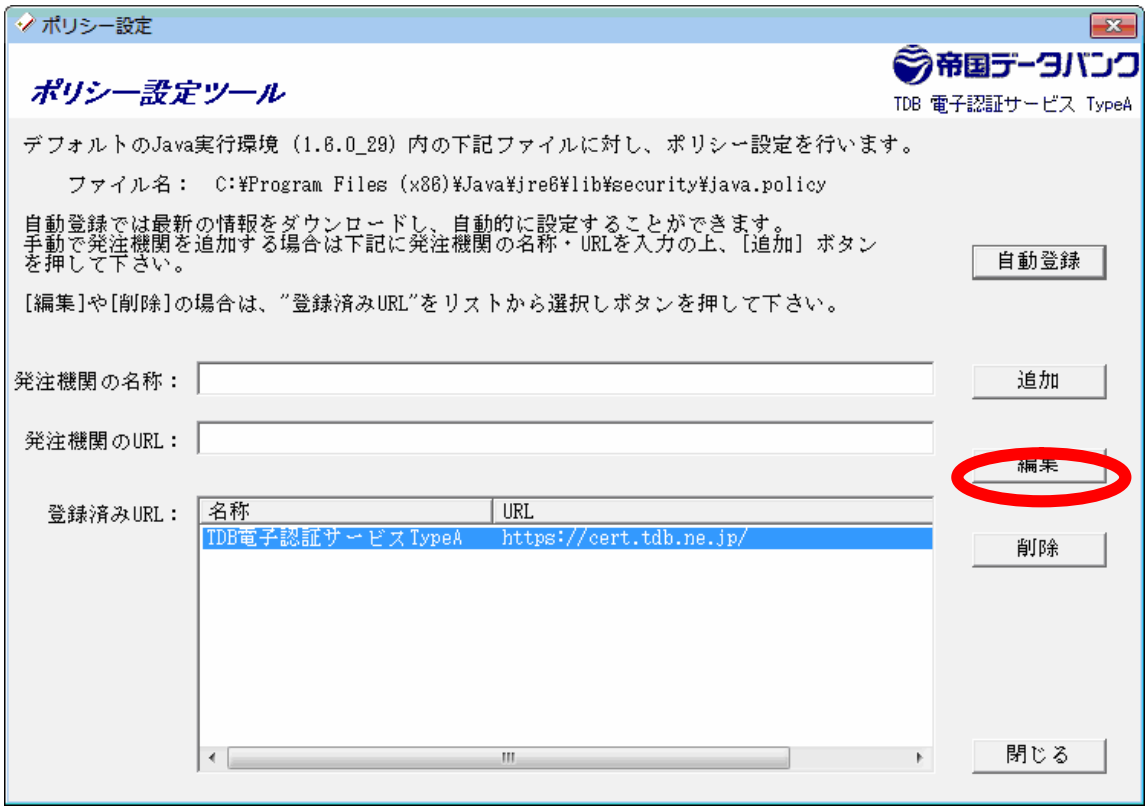
URL 記載にミスがあると、以下のメッセージが表示されます。
この場合には、[OK]ボタンを押して元の画面に戻り、正しい URL を入力して再度[追加]ボタンを押してください。

ツール終了時にエラーが生じた場合には以下のようなメッセージが表示されますので、上段に記載されている java.policy ファイルに問題がないかご確認ください。

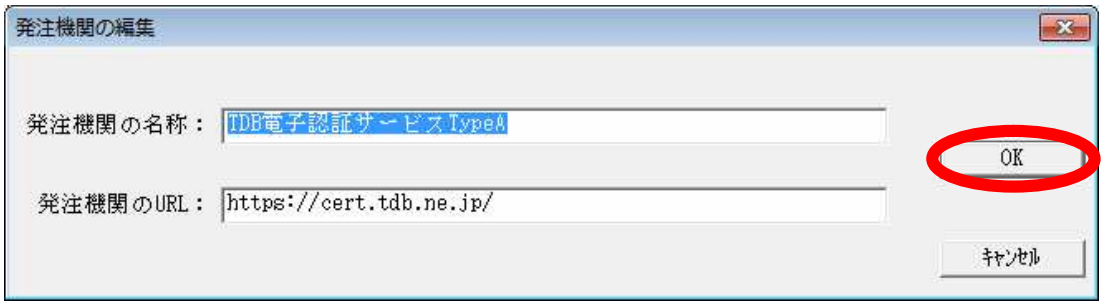


(b) 発注機関の名称または URL の編集

①「登録済み URL」のリストから編集したい項目を選択の上、[編集]ボタンを押してください。

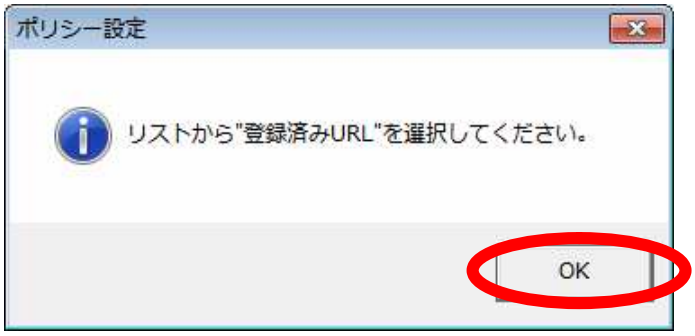


②新しいダイアログが表示されますので、発注機関の名称と URL を入力し[OK]ボタンを押します。
編集を中止するときは[キャンセル]ボタンを押してください。



★[編集]ボタンを押した時のエラー

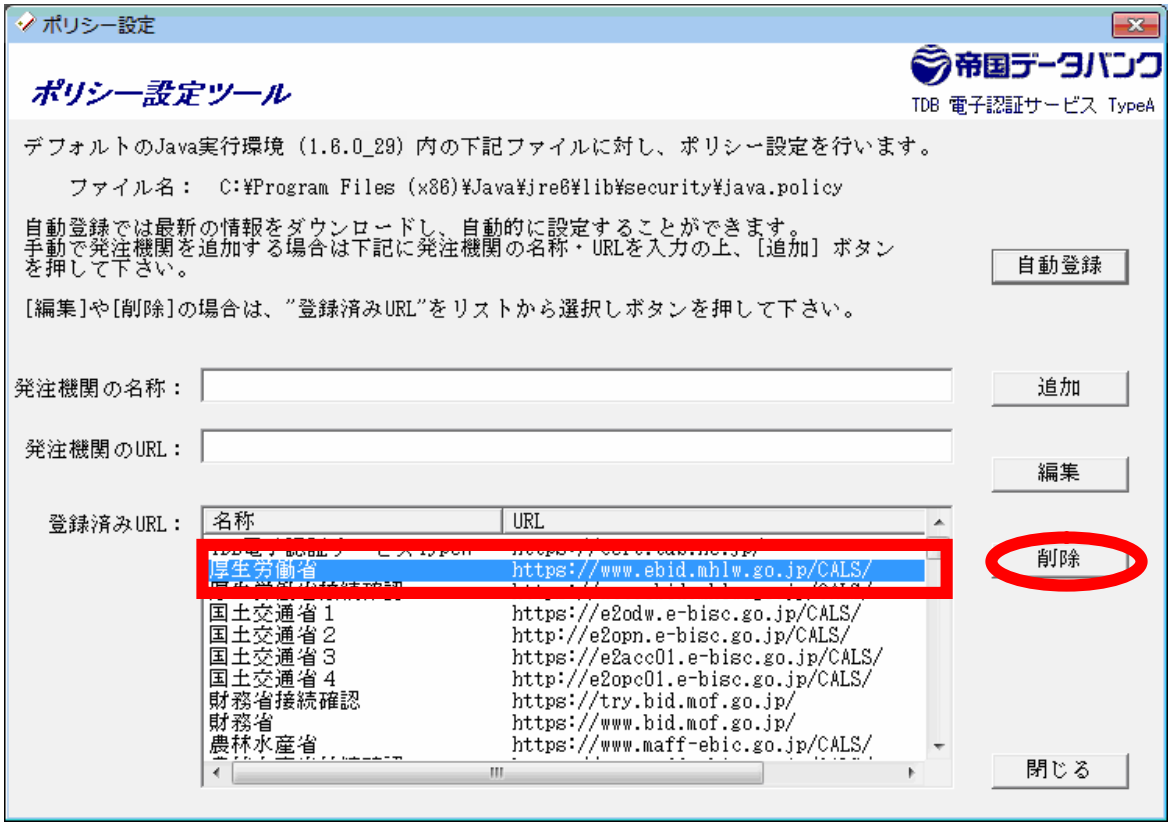
[編集]ボタンを押したときに、リスト内の項目が選択されていないと、以下のメッセージが表示されます。



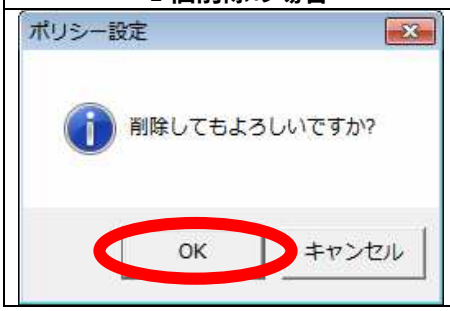
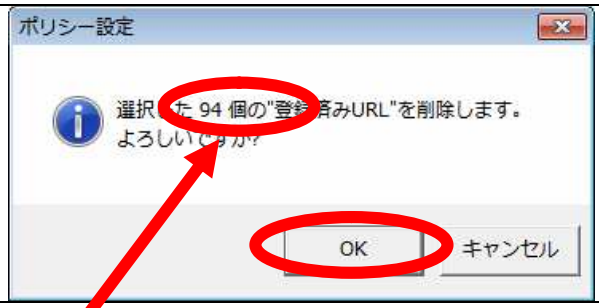
(c) 発注機関の名称・URL の削除

① 「登録済み URL」のリストから削除したい項目を選択の上、[削除]ボタンを押してください。
複数削除を行う場合は以下のように操作してください。

個別選択での複数削除：キーボードの[Ctrl]キーを押しながらクリック
範囲選択での複数削除：クリック後、キーボードの[Shift]キーを押しながらクリック



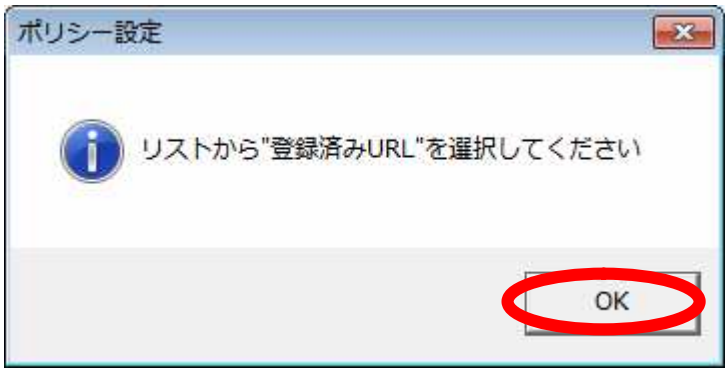
② 削除の確認を行うメッセージが表示されますので、削除する場合は[OK]ボタンを、削除を中止する場合は[キャンセル]ボタンを押してください。

1 個削除の場合	複数削除の場合
	

初期登録されている「TDB 電子認証サービス TypeA」は削除しないようにしてください。もし間違って削除した場合は、「自動登録」を再度実行してください。

★[削除]ボタン押した時のエラー

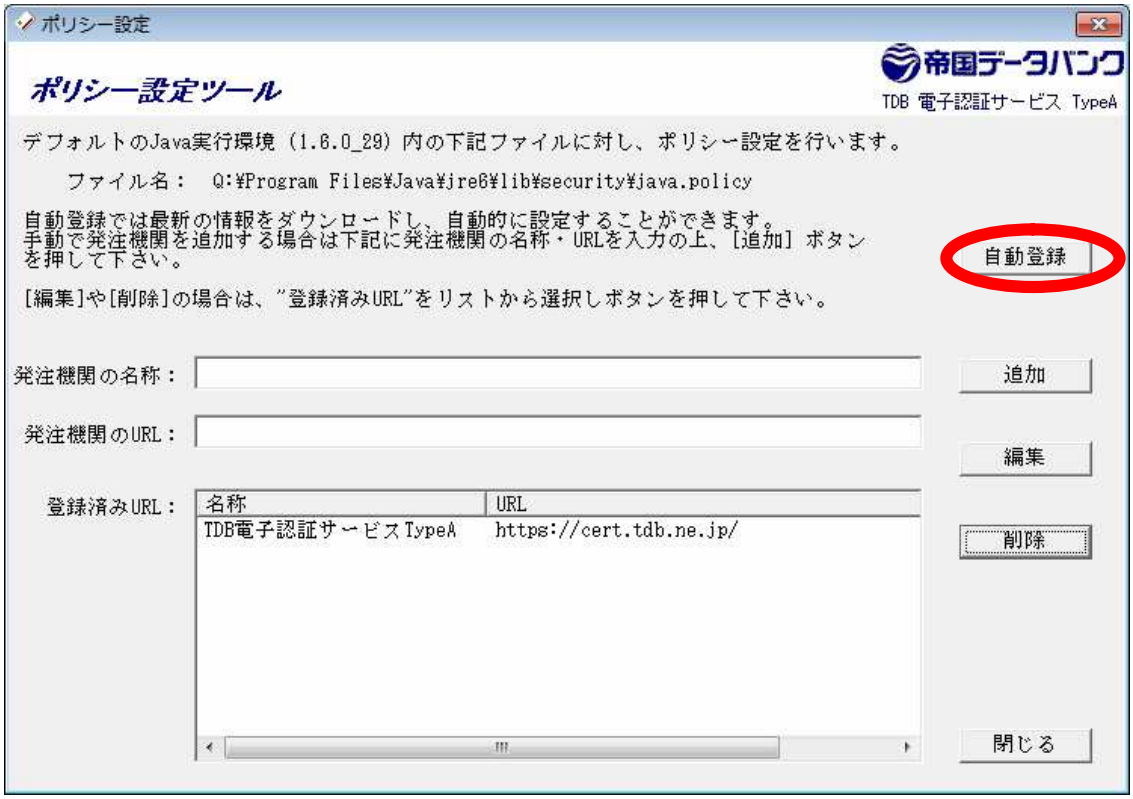
[削除]ボタンを押したときに、リスト内の項目が選択されていないと、以下のメッセージが表示されます。



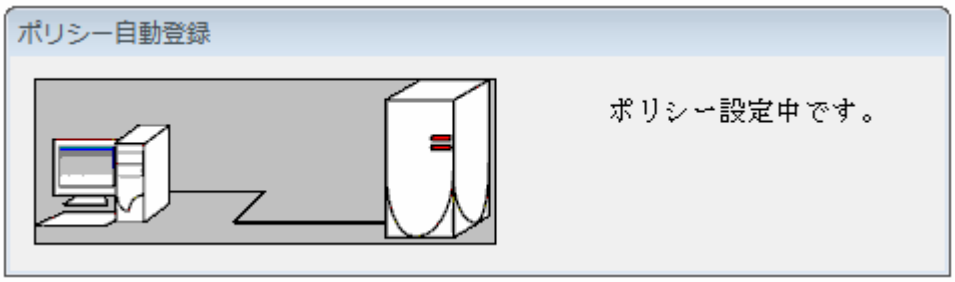
(d) 自動登録

セキュリティポリシーの自動登録は、「3.6セキュリティポリシー設定」による手順の他に、ポリシー設定ツールからも可能です。

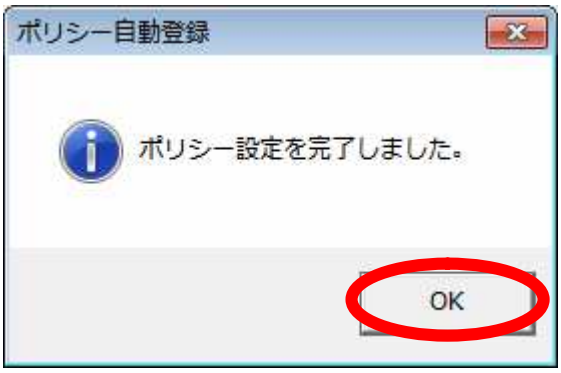
① 自動登録を行う場合は、[自動登録]ボタンを押してください。



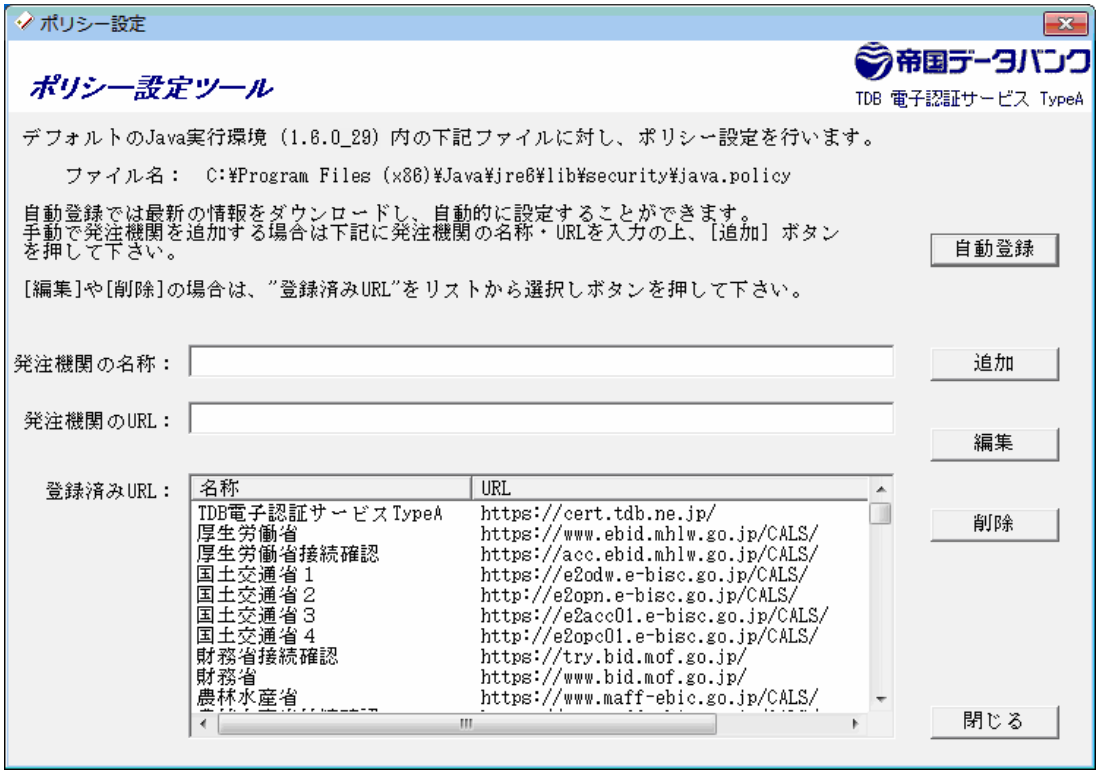
② 以下のようなポリシー設定中のメッセージが表示されます。



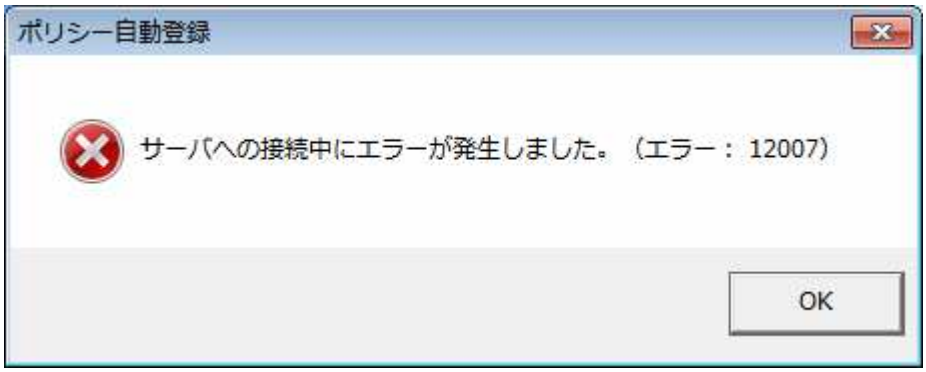
③ ポリシー設定が完了すると、以下のようなメッセージが表示されます。[OK]ボタンを押してください。



④ 自動登録された内容が「登録済み URL」の欄に表示されます。



以下のようなメッセージが表示された場合は、ネットワーク設定が原因の可能性があります。
Internet Explorer のネットワーク設定においてプロキシサーバ等の設定が正しく行われているか確認してください。
また、パソコンもしくはネットワークの管理者、プロバイダ等にお尋ねください。



※注 お使いのパソコン・ネットワーク環境によっては上記以外のメッセージが表示される場合もあります。

4.4 e-Tax 設定ツール

e-Tax 設定ツールは、IC カードの内容を、国税電子申告・納税システム（e-Tax、以下 e-Tax）および、地方税ポータルシステム（eLTAX、以下 eLTAX）対応に設定するツールです。

e-Tax、または eLTAX により各種申告を行う場合は、予め IC カードの内容を e-Tax 対応に設定しておく必要があります。

注意

既に、ご利用ソフト V1.0/V1.1 の e-Tax プラグインソフト（e-Tax 設定ツール）で、IC カードの内容を e-Tax 対応に設定、または初期状態に設定した場合は、本バージョンの e-Tax 設定ツールで IC カードの内容を設定し直してください。
本ツールを起動後、「IC カードと PC 状態で不一致」と表示されることがありますが、本設定を行うことで一致状態とすることができます。

準備

全ての Windows プログラムを必ず終了してから行ってください。

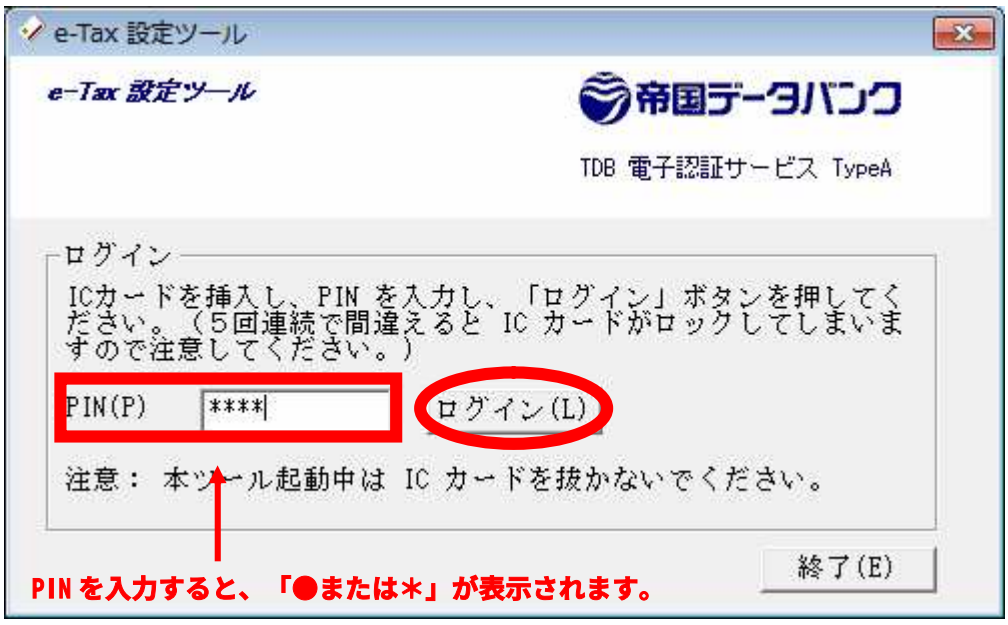
IC カードリーダがお使いのパソコンに接続されていることを確認して、IC カードを IC カードリーダに挿してください。
この時、IC カードの挿し方が不十分ですと誤作動の原因となりますのでご注意ください。

起動

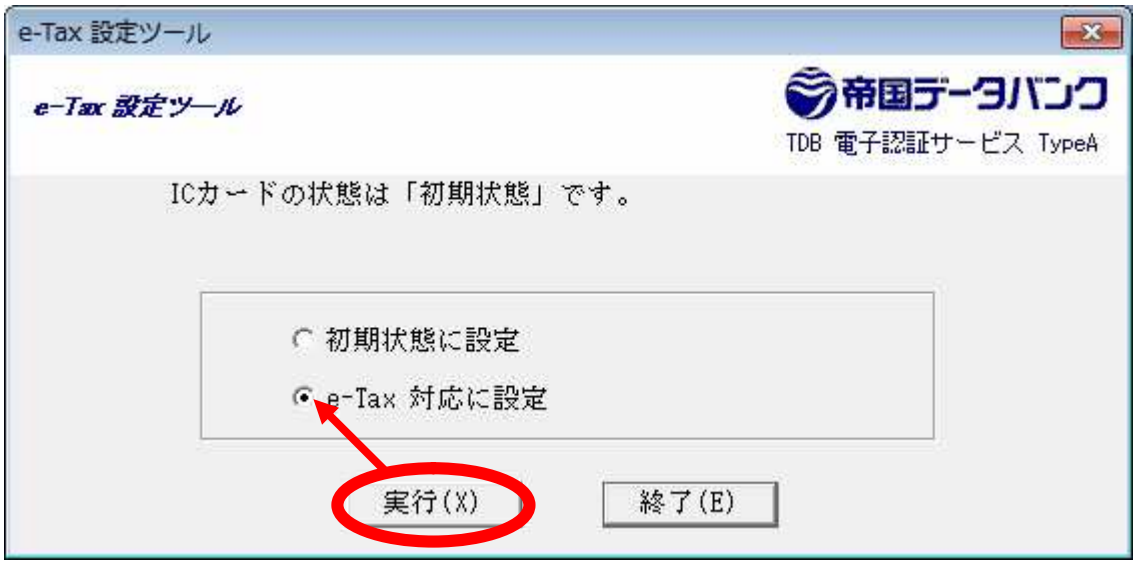
[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> [e-Tax 設定ツール]を選び、「e-Tax 設定ツール」を起動します。

（a）e-Tax 対応に設定

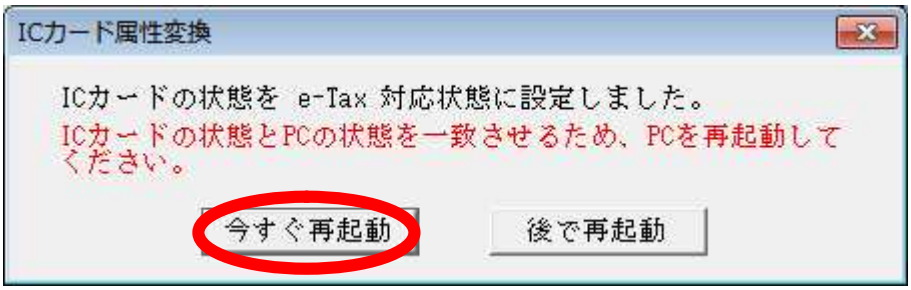
① ツールが起動されると、PIN 入力画面が表示されますので、IC カードの PIN（暗証番号）を入力し、[ログイン]ボタンを押してください。



② ログインに成功すると以下の画面が表示されます。
[e-Tax 対応に設定]の選択ボタンを押し、[実行]ボタンを押します。
既に IC カードの状態が「e-Tax 対応状態」となっている場合は実行不要のため[終了]ボタンを押します。



③ e-Tax 対応への設定が完了すると以下のメッセージが表示されます。
[今すぐ再起動]ボタンを押し、e-Tax 設定内容を反映させてください。

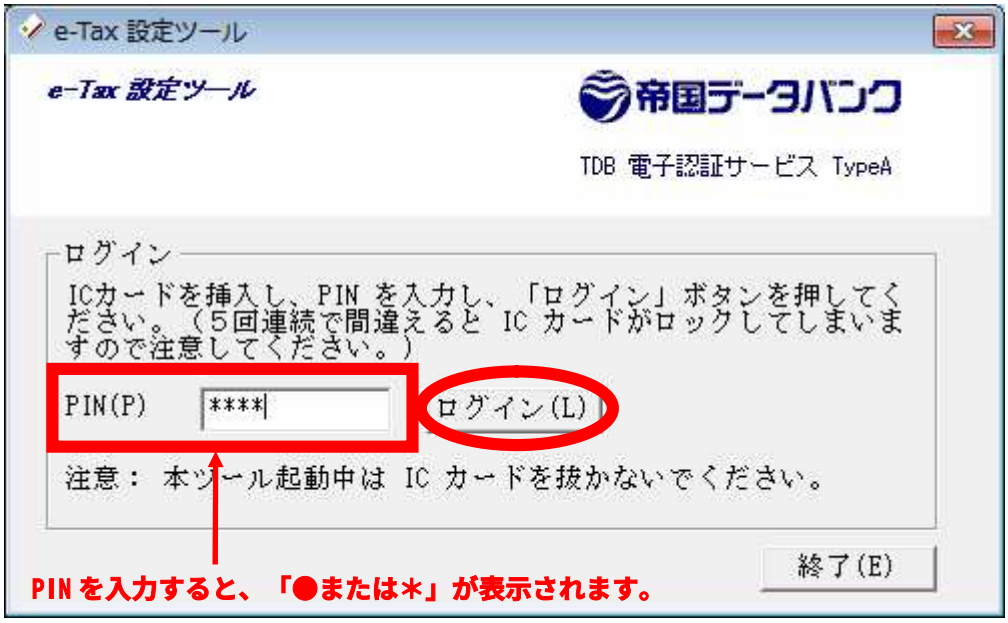


(注意)
各省庁等の電子入札・申請システムにおいて、Internet Explorer などへの証明書の登録を必要とする場合、再度、証明書を登録し直す必要があります。
Internet Explorer への証明書の登録は、Windows システムのユーザ毎に行う必要があります。

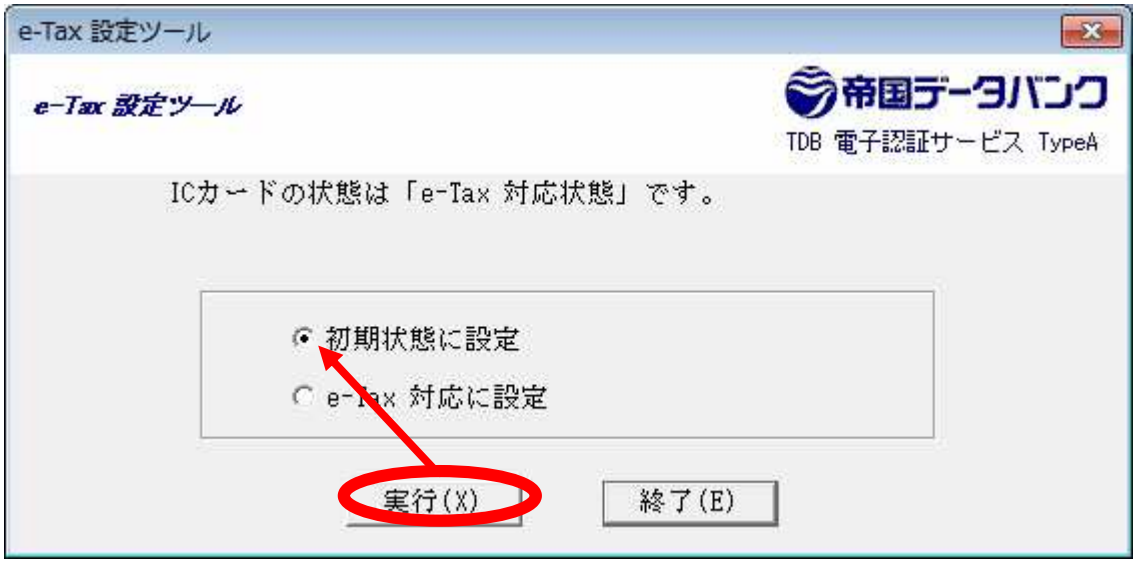
証明書の登録方法については、TDB 電子認証サービス TypeA ホームページ(URL：http://www.tdb.co.jp/typeA/)、各省庁等のシステムのホームページに掲載されている利用手続き等の内容をご確認ください。

（b）初期状態に設定

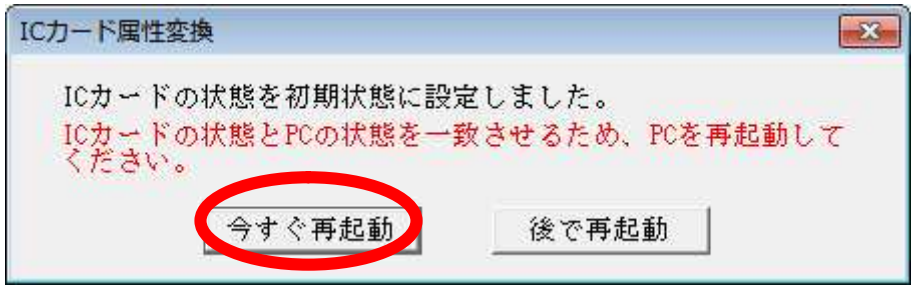
① ツールが起動されると、PIN 入力画面が表示されますので、IC カードの PIN（暗証番号）を入力し、[ログイン]ボタンを押してください。



② ログインに成功すると以下の画面が表示されます。
[初期状態に設定]の選択ボタンを押し、[実行]ボタンを押します。
既に IC カードの状態が「初期状態」となっている場合は実行は不要のため[終了]ボタンを押します。



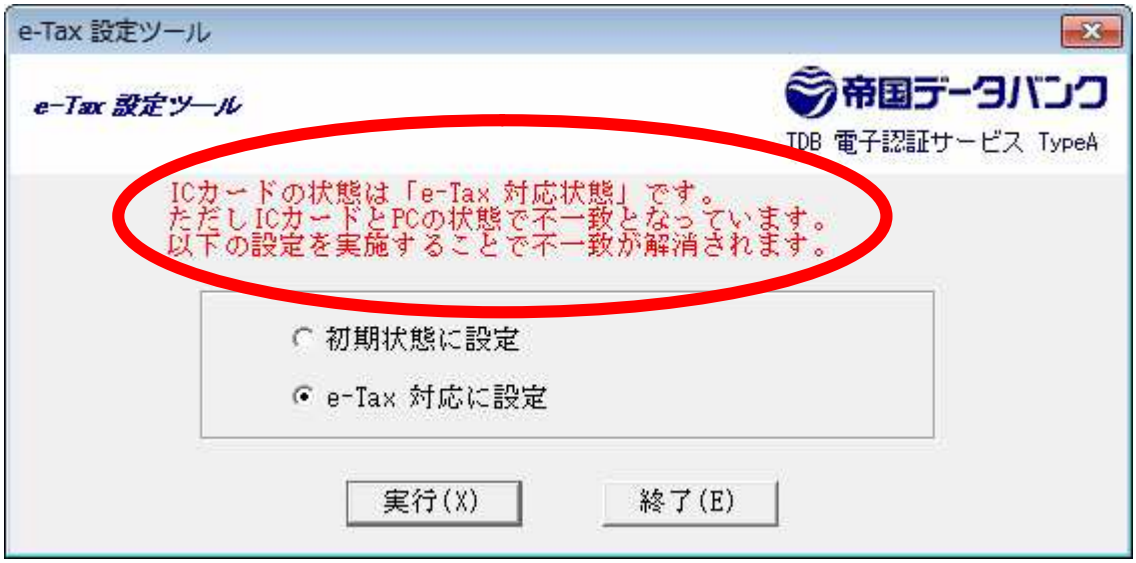
③ 初期状態への設定が完了すると以下のメッセージが表示されます。
[今すぐ再起動]ボタンを押し、e-Tax 設定内容を反映させてください。



(注意)
各省庁等の電子入札・申請システムにおいて、Internet Explorer などへの証明書の登録を必要とする場合、再度、証明書を登録し直す必要があります。
Internet Explorer への証明書の登録は、Windows システムのユーザ毎に行う必要があります。

証明書の登録方法については、TDB 電子認証サービス TypeA ホームページ(URL：http://www.tdb.co.jp/typeA/)、各省庁等のシステムのホームページに掲載されている利用手続き等の内容をご確認ください。

(注意)
e-Tax 設定ツール起動時に、PC 側と IC カード側での状態が不一致となっていた場合には以下のようなメッセージが表示されます。本ツールにていずれかの設定を実行し、PC を再起動することで不一致を解消することが出来ます。



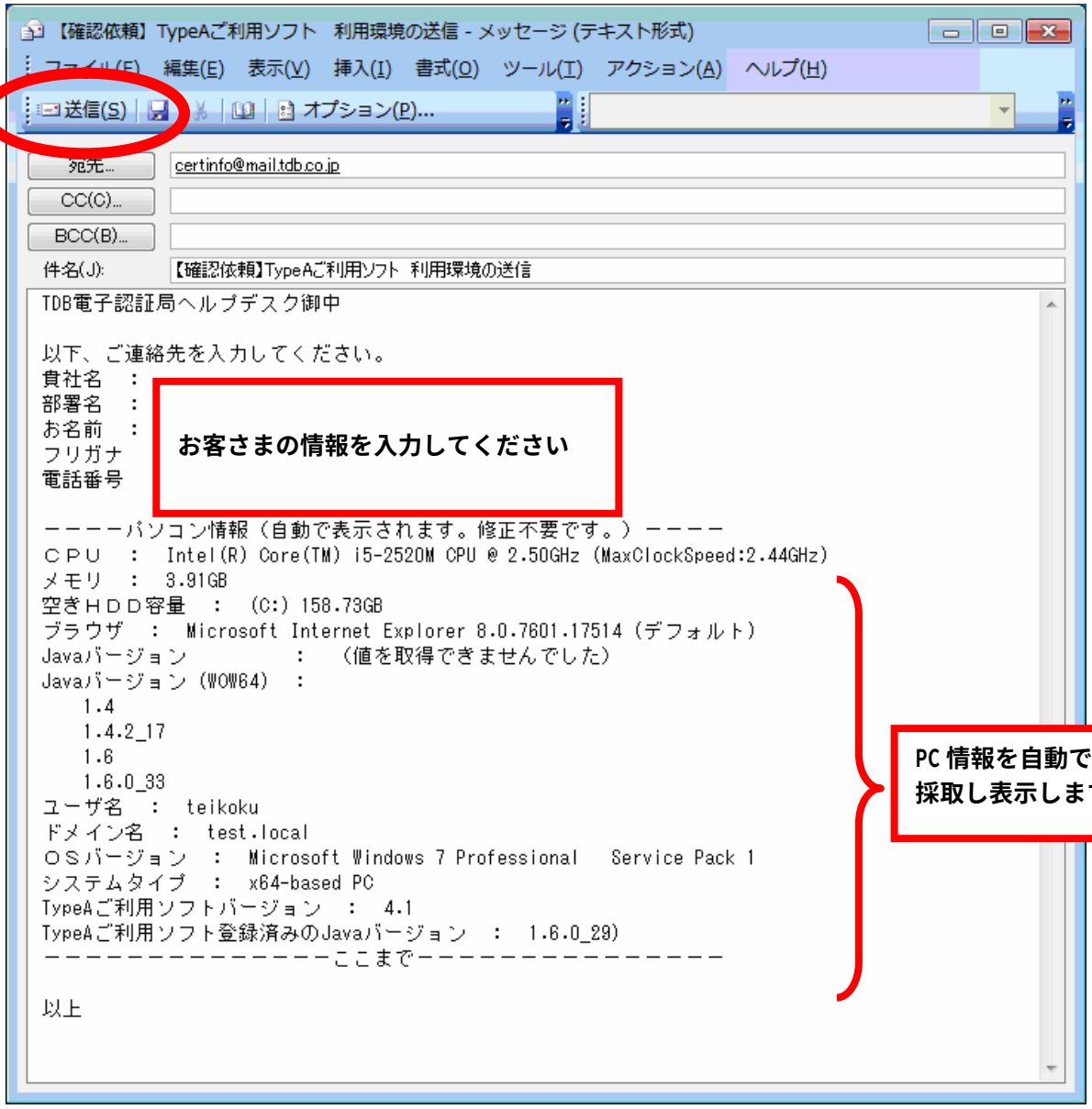
4.5 利用環境送信ツール

利用環境送信ツールは、通常使用することはありません。
ご利用ソフトが利用できない場合など、原因を確認するために、お客さまのパソコン情報をヘルプデスクへ伝えるツールです。

起動

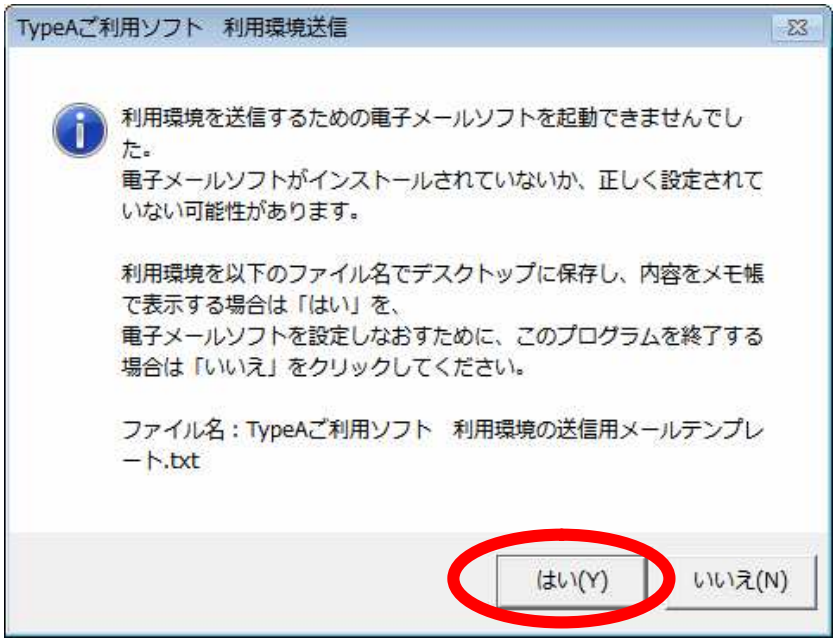
(a)　ツール起動

インストールフォルダ（デフォルトは C:¥Program Files¥TDB¥TDBCATypeA、Windows7(64bit)は C:¥Program Files(x86)¥TDB¥TDBCATypeA）の下にある[利用環境送信ツールのショートカット]をダブルクリックしてください。
ツールを起動すると PC に設定されている標準設定されたメールソフトが起動します。
パソコン情報を確認していただき、お客さま情報を入力のうえ、[送信]ボタンを押して弊社宛にメールを送信してください。

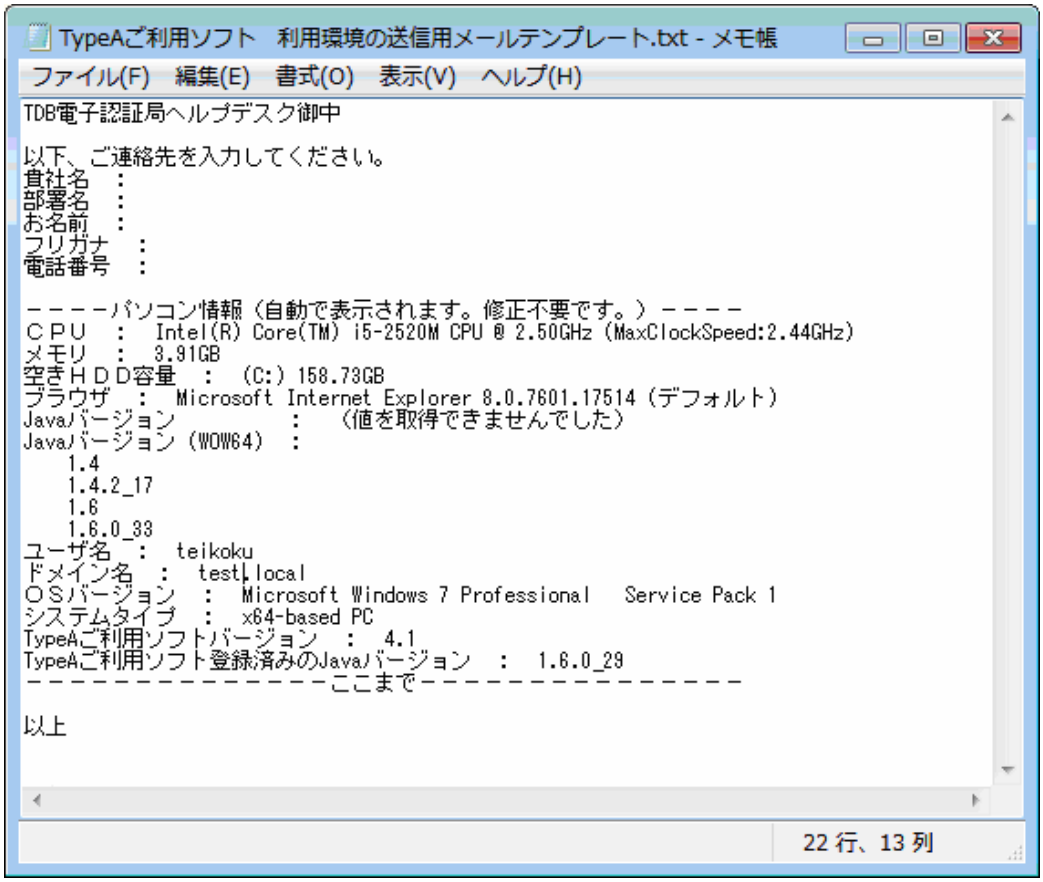


(C) ツール起動不可

メールソフトがインストールされていないなどの理由により、起動できない場合は、以下の画面が表示されます。メールソフトの設定を行い、再度ツール起動する場合は[いいえ]ボタンを押してください。
他の PC などを使ってメール送信する場合は[はい]ボタンを押すことで、送信内容がメモ帳に開き、デスクトップに「TypeA ご利用ソフト 利用環境の送信用テンプレート.txt」が作成されます。



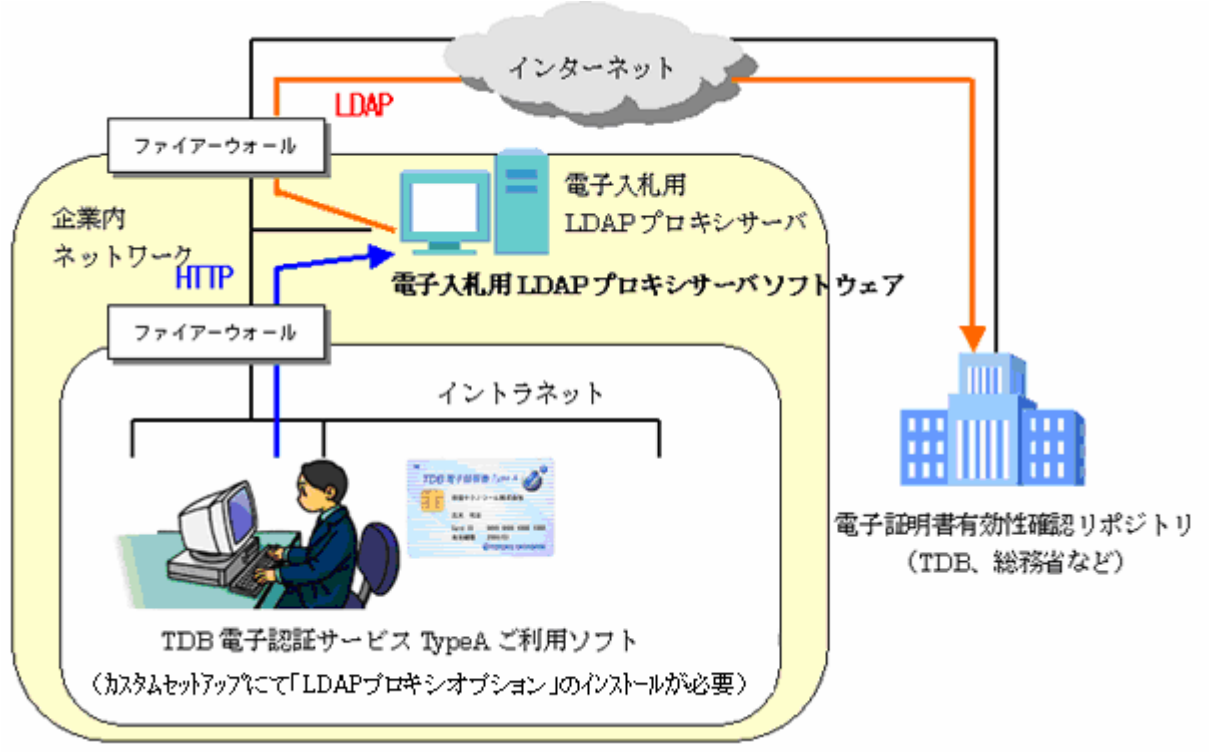
上記で[はい]ボタンをクリックした場合、以下のようにメモ帳が起動します。



4.6　リポジトリ接続プロトコル設定ツール

リポジトリ接続プロトコル設定ツールは、インターネットに接続する際ファイアウォールが途中に存在し、LDAP 通信が不可能である場合において、外部に LDAP プロキシサーバを用意することで、TDB 電子認証サービス TypeA による電子入札を可能するための「LDAP プロキシオプション」を設定するためのツールです。

電子入札用 LDAP プロキシと電子入札の基本構成図



注意

本ツールで設定を行うだけでは「LDAP プロキシオプション」を利用することはできません。

「LDAP プロキシオプション」を使用するためには、東芝ソリューション株式会社にて販売している「電子入札用ＬＤＡＰプロキシサーバソフトウェア」を別途購入し構築しておく必要があります。

「電子入札用 LDAP プロキシサーバソフトウェア」に関するお問い合わせ先

東芝ソリューション株式会社　プラットフォームソリューション事業部

ＵＲＬ：http://www.toshiba-sol.co.jp/nsd/sec/p007.htm

準備

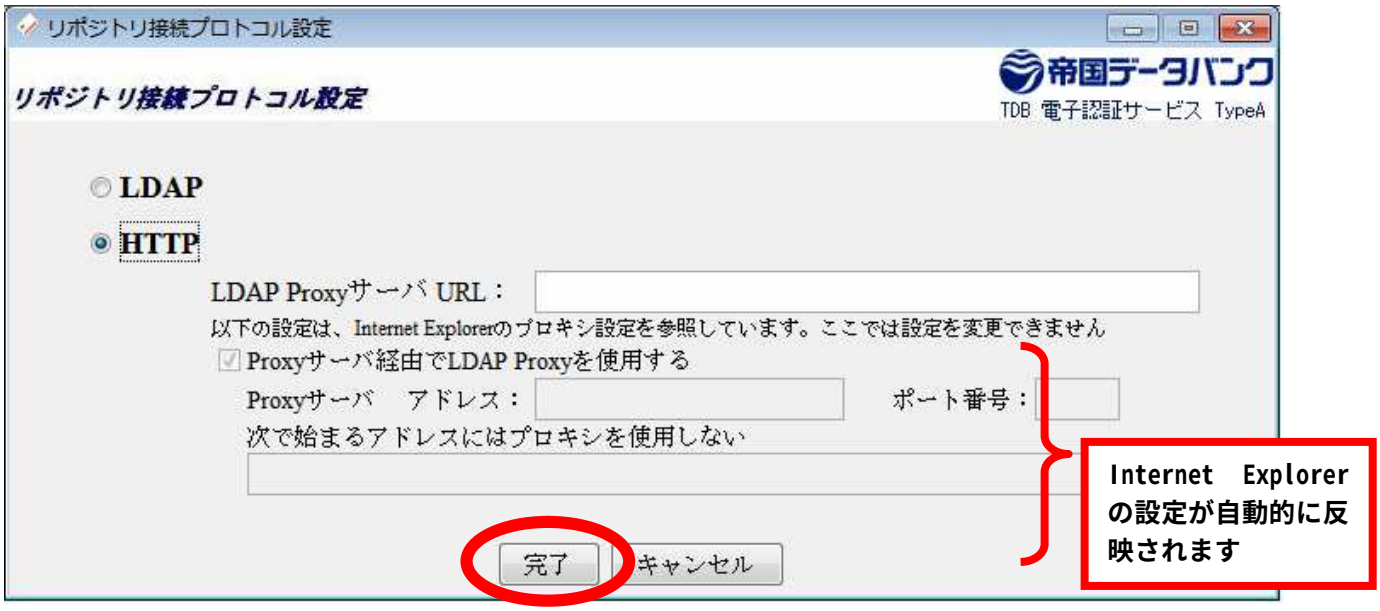
全ての Windows プログラムを必ず終了してから行ってください。

インストール時のカスタムオプションにて、「インストールする」を選択していないと、本ツールの起動はできません。

起動

[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> 「リポジトリ接続プロトコル設定」を選び「リポジトリ接続プロトコル設定」ツールを起動します。

起動後、画面内の各項目をネットワークの環境に合わせて設定し、[完了]ボタンを押します。



◆リポジトリ接続プロトコル設定

項　目	説　明
LDAP	直接リポジトリに接続して、電子入札を行う場合に選択します。 LDAP プロキシサーバ経由で使用しない場合と同じ動作となり、通信プロトコルに LDAP が使用されます。
HTTP	電子入札用 LDAP プロキシサーバ経由にてリポジトリに接続し、電子入札を行う場合に選択します。 通信プロトコルとして HTTP が使用されます。
電子入札用 LDAP Proxy サーバ URL	電子入札用 LDAP プロキシサーバの URL を指定します。 IIS6.0/7.0/7.5 に対し電子入札用 LDAP プロキシサーバを使用する場合の標準的な設定値は以下となります。 **http : // [LDAP プロキシサーバのホスト名または IP アドレス]** **/ cgi-bin / LDAPProxy / LDAPProxy.cgi** **本設定は、通信プロトコルに HTTP を指定した場合のみ有効です。**
HTTP Proxy 設定内容	電子入札用 LDAP プロキシサーバと接続する際に、HTTP プロキシ

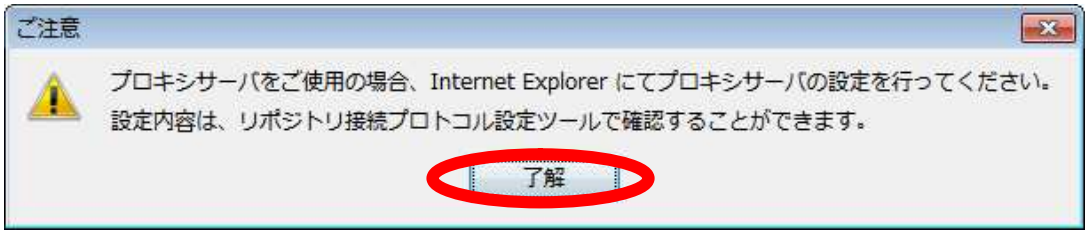
サーバが表示されます。
この設定内容は Internet Explorer の設定を表示しているため、設定を変更する場合には、Internet Explorer 設定を変更してください。

（注意）[LDAP Proxy サーバ URL]に設定する値は、電子入札用 LDAP プロキシサーバの管理者にお問い合わせいただくか、電子入札用 LDAP プロキシサーバの設定内容を確認ください。
（注意）HTTP プロキシサーバに関する情報は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

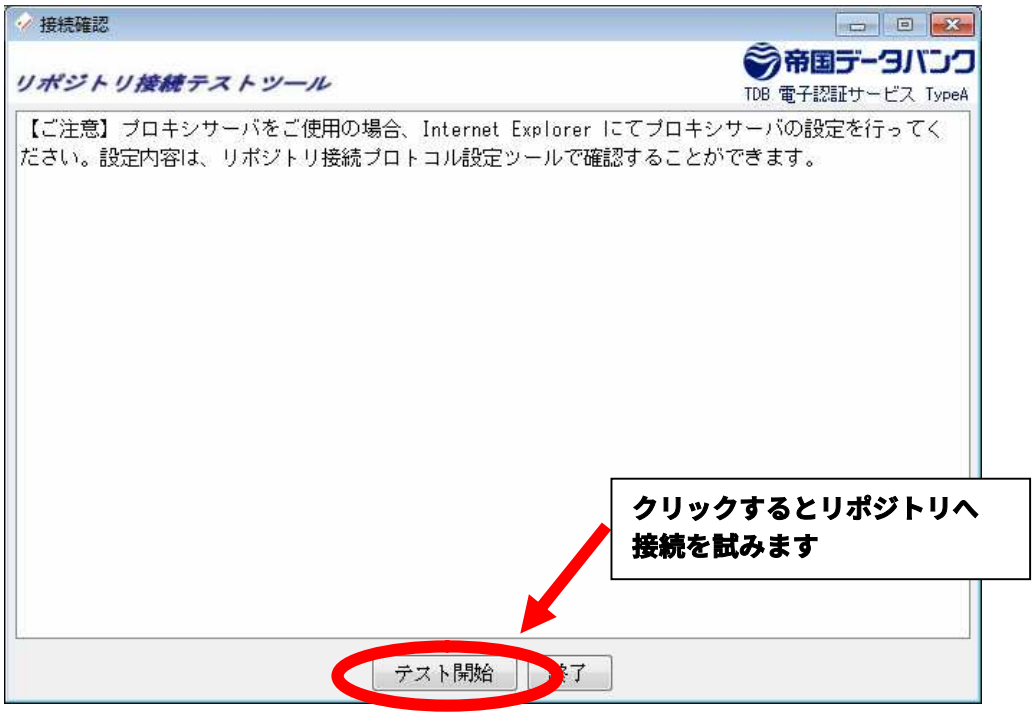
確認

[スタートメニュー] -> [プログラム] -> [帝国データバンク] -> [TDB 電子認証サービス TypeA] -> 「リポジトリ接続テスト」を選び、「リポジトリ接続テスト」ツールを起動します。
LDAP 通信時とはメッセージ内容に違いがあります。

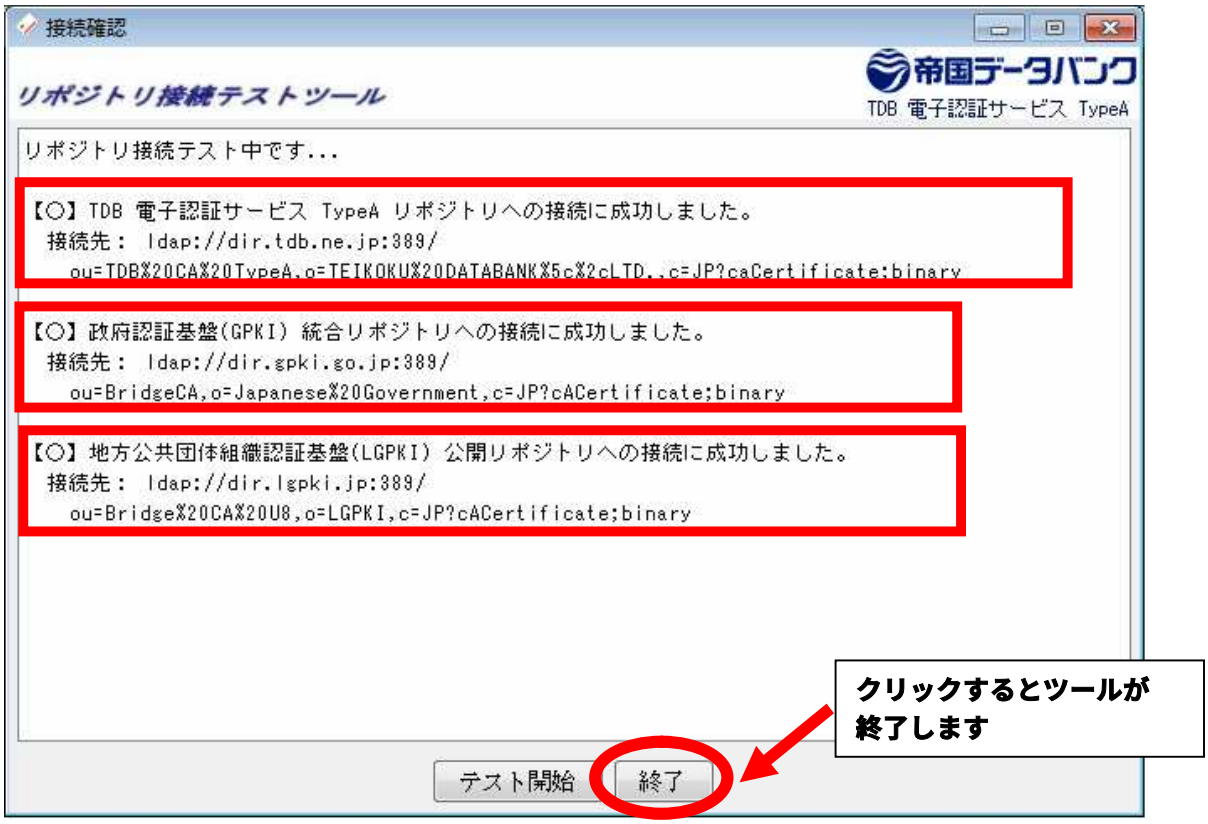
テストツールが起動する前に、以下のメッセージが表示されます。[了解]ボタンを押してください。
表示される内容は LDAP 通信時と HTTP 通信時でメッセージが違います。



リポジトリ接続テストツールが起動すると、以下のようなウィンドウが表示されます。
[テスト開始]ボタンを押してください。表示される注意文はＬＤＡＰ通信時とＨＴＴＰ通信時でメッセージが違います。



「接続に成功しました」というメッセージが出るとリポジトリへアクセスが可能です。
[終了]ボタンを押してツールを終了してください。



（注意）エラーが発生した場合は、電子入札用 LDAP プロキシサーバの管理者にお問い合わせいただくか、電子入札用 LDAP プロキシサーバの設定内容を確認ください。

株式会社帝国データバンク